

刈谷市国際化・多文化共生推進計画

報告書

令和5年〇月

刈谷市

計画の総評は、(1)～(3)の視点で行い、次期計画策定に向けた課題を抽出につなげる。

(1) 5つの場面の「将来こうしたい！風景」

- ・現計画で定めた5つの場面ごとのビジョンである「将来こうしたい！風景」の達成状況を各種アンケート結果、ヒアリング結果などをもとに評価する。

(2) 第3期重点協働プロジェクト

- ・重点協働プロジェクトは、第1期から第3期の各期ごとに3つずつのプロジェクトを行った。それらを分類・整理すると、下表のとおり「地域共生関連プロジェクト」、「外国人支援・参画・共助関連プロジェクト」、「ESD 関連プロジェクト」に大別される。

区分	第1期	第2期	第3期
地域共生関連プロジェクト	モデル地域・学区プロジェクト	共生の地域・学区プロジェクト	共生の地域づくり発展プロジェクト
外国人支援・参画・共助関連プロジェクト	地球市民拠点プロジェクト	多文化対応プロジェクト	外国人市民の参画と共助プロジェクト
ESD 関連プロジェクト	学校 ESD プロジェクト	ESD 実践・推進プロジェクト	ESD 推進プロジェクト

- ・重点協働プロジェクトは区分ごとに、第1期から第3期まで同様または類似したテーマや目標をもって取り組まれており、第3期の重点協働プロジェクトの成果を評価することで、各区分の重点協働プロジェクトの最終的な成果を評価することになる。そこで計画の第3期に実施した重点協働プロジェクトの取り組み内容を、設定した目標に照らして評価する。

(3) 各取り組み施策

- ・計画で5つの場面に分けて定めた各取り組み施策の実績について、達成度を下表の基準で評価する。

取り組み施策の達成度の評価基準

達成度	記号	基準の考え方
高	◎	取り組み施策に対して内容・方向的に十分行われているもの。
中	○	取り組み施策に対して内容・方向的に一部行われているもの。 目標到達まで、まだ実施すべき施策があると考えられるもの。
低	△	取り組み施策が、ほとんど行われていないもの。 目標到達のためには、新規施策の実施が必要。
不明	—	各場での取り組みが不明であるもの。 目標到達のためには、実態調査が必要。

表中の「取り組み内容」の〈Ⅰ〉～〈Ⅲ〉の記号については、以下のとおり。

〈Ⅰ〉第3期重点協働プロジェクトの「地域共生関連プロジェクト」に関する取り組み

〈Ⅱ〉第3期重点協働プロジェクトの「外国人支援・参画・共助関連プロジェクト」に関する取り組み

〈Ⅲ〉第3期重点協働プロジェクトの「ESD 関連プロジェクト」に関する取り組み

(4) 評価のまとめと課題

- ・上記(1)～(3)の評価をまとめ、次期計画に向けた課題を抽出する。

2

5つの場面の将来こうしたい！風景の評価

① 地域

「地域」における将来こうしたい！風景について、各種アンケート、ヒアリングをもとにして、その達成状況を評価した結果は、以下のとおりである。

[将来こうしたい！風景]

- ① 誰もが、地域の住民に関心を持ち、それぞれの文化を大切にし、認めあい、助けあっている。
- ② 人々が交流する場があり、様々な国の文化と出会い、多様な情報を提供しあっている。
- ③ 国籍等の異なる家庭同士のつながりが強くなっている。
- ④ 誰もが、地域に関心を持ち、文化継承、交流、改善、発展のための活動を行ったり、参加したりしている。



風景事例	◇一ツ木町のワールドデン※では、毎月の合同作業日に地域の外国人が参加し、日本人と言葉の壁を越え気軽にコミュニケーションを取っている。	◇一ツ木町の地元企業で働く外国人が、ワールドデンで知り合った地区の日本人とともに、多文化共生チームを作り、地元の運動会に参加している。	◇小垣江町のフィリピン人、ベトナム人、スリランカ人が日本人の住民グループとともに企画を考え、市民館で遊びや食事を通じた文化交流をしている。																
市民等の意識	<p>● 【多文化共生の意識】（市民意識調査において「刈谷市に住む外国人と日本人は、異なる文化や習慣を互いに認め合いながら暮らしていると思いますか？」の設問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答割合）</p> <p>◇平成 22 (2010) 年度の 37.0% からの推移は右図のとおりで、45%前後で横ばいであったのが令和 4 (2022) 年度に 61.7% に増え、目標指標の 45% を大きく上回っている。</p> <div style="text-align: right;"> <table border="1"> <caption>多文化共生の意識（回答割合）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2010</td><td>37.0</td></tr> <tr><td>2012</td><td>45.3</td></tr> <tr><td>2014</td><td>45.5</td></tr> <tr><td>2016</td><td>46.6</td></tr> <tr><td>2018</td><td>45.6</td></tr> <tr><td>2020</td><td>48.4</td></tr> <tr><td>2022年度</td><td>61.7</td></tr> </tbody> </table> </div> <p>● 【外国人と日本人の交流状況】</p> <p>◇外国人市民への意識調査【令和 4 (2022) 年度実施、以下同じ】では、地域の日本人と交流状況は、「既に十分に交流している」23.7%、「少し交流しているがもっと交流したい」39.8%と、交流している割合は 63.5%となっている。</p> <p>◇日本人市民への意識調査【令和 4 (2022) 年度実施、以下同じ】では、地域の外国人との交流状況は、「既に十分に交流している」5.9%、「少し交流して</p>			年度	割合 (%)	2010	37.0	2012	45.3	2014	45.5	2016	46.6	2018	45.6	2020	48.4	2022年度	61.7
年度	割合 (%)																		
2010	37.0																		
2012	45.3																		
2014	45.5																		
2016	46.6																		
2018	45.6																		
2020	48.4																		
2022年度	61.7																		

	<p>いるがもっと交流したい」5.4%と、交流している割合は 11.3%となっている。</p> <p>【コミュニティへの役立ち意向】</p> <p>◇外国人市民への意識調査では、「地域に暮らすコミュニティの一員として、何か役に立ちたいと思いますか」に「とても思う」+「思う」の回答割合は 86.6%となっており、日本人市民の回答割合の 48.5%よりも高い。</p> <p>【外国人が増えることへの考え】</p> <p>◇日本人市民への意識調査では、「あなたが住んでいる地域で、外国人の住民が増えた場合に、期待できると思うこと／不安に思うこと、は何ですか？」の設問に対し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「期待の選択肢への回答者」74.4% ・「不安の選択肢への回答者」86.5% <p>と、期待より不安の方が、12.1%上回っている。</p>
<p>総評</p> <p>◇：成果</p> <p>◆：課題</p>	<p>◇重点プロジェクトでモデル地域とした一ツ木町では、各種イベントやワールデン 10 年間の活動を通して、活動に参加している人同士では、外国人と日本人が気軽にあいさつし合えるような顔の見える関係ができてきている。</p> <p>◆ただし、一ツ木町全体で見ると、ワールデンに参加している日本人は、一ツ木町の住民のうちのわずかであり、参加している外国人についても一ツ木町在住の人の割合は必ずしも高くない状況である。</p> <p>◇一方、近年は日本人同士でも地域における関係が希薄になってきていることを考えると、ワールデンでの活動を地域住民が主体となって約 10 年間続けてきたこと自体が評価できることである。</p> <p>◇地域での交流活動は、小垣江町でも取組が始まっており、モデル地域から市内他地域へ広がっていく方向にある。</p> <p>◆地道な草の根の活動とともに、日本人市民の外国人に対する偏見や不安の気持ちを払拭するようなアプローチをしていくことが、「将来地域のこうした！風景」を実現するための課題でもある。</p>

※ワールデン…コミュニティガーデンであるワールド・スマイル・ガーデン一ツ木の略

② 教育現場

「教育現場」における将来こうしたい！風景について、各種アンケート、ヒアリングを、もとにして、その達成状況を評価した結果は、以下のとおりである。

【将来こうしたい！風景】

- ① すべての子どもが、等しく義務教育を受けられ、卒業後に向けた支援体制が整っている。
- ② すべての子どもが、いじめや差別なく、ありのままの自分を受け容れられている。
- ③ すべての子どもが、様々な国の文化にふれられ、外国人のともだちをつくる機会がある。
- ④ すべての子どもが、地域や世界の共通の課題を共に考え、解決していくための力が育まれている。



風景事例	◇外国人が多い一ツ木地区の保育園、幼稚園、小学校などでは、外国につながるのある子どもと日本人の子どもが、違いを意識せず分け隔てなく遊んでいる。	◇東刈谷小学校の小学3年生が体育館で、マラウイ、ミャンマー、韓国の留学生からその国の様子を聞いたり、遊び、踊りを一緒に楽しんだりしている。	◇刈谷南中学校の英語の授業で、防災と多文化共生をテーマとして、在住フィリピン人の講師に向けて、生徒がグループで考えた防災アイデアを発表している。
市民等の意識	<p>【子育てに関する施策評価】 ◇外国人市民への意識調査では、「刈谷市は、子どもを生み・育てやすいと思いますか？」という設問に「そう思う」+「どちらかといえば思う」の回答割合は93.3%となっており、日本人市民の回答割合の87.2%よりも高い。</p> <p>【子育てや教育で困ったこと】 ◇子どもがいる外国人市民への意識調査では、「子育てや教育で困っていることや困った経験」で「将来こうしたい！風景」に関連する選択肢の回答割合は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校に進学するために何をしたらいいかわからないこと24.0% ・子どもがいじめや差別を受けていること7.0% ・困っていること、困ったことはない47.0% <p>【小・中学校への通学状況】 ◇子どもがいる外国人市民への意識調査【令和3（2021）年度実施、愛知県調査】では、「学校へ行っている」は90.0%、「以前は学校へ行っていたが、やめた」は10.0%で、やめた理由は「授業に追いつけないから」「いじめや差別が心配だから」であった。</p> <p>【語学指導が必要な子どもへの支援の状況】 ◇令和3（2021）年度は外国人児童・生徒442人中、語学指導が必要な児童・</p>		

	<p>生徒は 229 人おり、ニーズが高い学校でプレスクールを開設したり、語学指導員が巡回指導したり、愛知教育大学やボランティア団体 SSS により、取り出し（個別）授業や放課後日本語教室が行われている。</p> <p>【外国人につながるのある子どもの学習支援団体へのヒアリング】</p> <p>◇「①すべての子どもが、等しく義務教育を受けられ、卒業後に向けた支援体制が整っている。」→中学校での支援の状況は十分でないと感じる。</p> <p>◇「②すべての子どもが、いじめや差別なく、ありのままの自分を受け容れている。」→小学校では差別等は、ほとんど感じない。子どもからはそういう話は聞かない。子ども同士は、外国人、日本人関係ない。周りにいて当たり前前の存在となっている。</p> <p>【ESD（※）推進メニューを受けた学校の子どもの意見】</p> <p>【令和 2（2020）年度 高校の生徒 40 人】</p> <p>◇SDGs について理解できましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「できた」30 人、「だいたいできた」10 人 <p>◇SDGs に関わる多様な生き方・働き方があることを知ることができたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「できた」35 人、「だいたいできた」5 人 <p>◇感想（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的なことを職としている方のお話を聞くという貴重な経験ができ、今後の私にとっての大きな財産となった。 ・今日の講義を受け、SDGs 解決、そしてグローバルな視点で物事を考えることを重点において、これからの進路を熟考していきたいと思う。 <p>【平成 29（2017）年度 小学校 5 年生】</p> <p>◇感想（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや食べ物、日本とキルギスの違うところも知ることができた。 ・勉強は苦手だけど楽しみながら学べてよかった。
<p>総評</p> <p>◇：成果</p> <p>◆：課題</p>	<p>◇教育現場における「将来こうしたい！風景」のうち、①の義務教育については、希望すれば誰でも入学できる状況となっている。</p> <p>◆卒業後の支援で大きな要素を占める中学校での日本語の学習については、きめ細やかな学習指導は難しい状況であることが課題である。</p> <p>◇②のいじめや差別については、外国人の子どもがいることが当たり前前の環境の中で、全体として子ども同士は差別なく共生していることが多い。</p> <p>◆しかし、外国人保護者は、自らの偏見・差別を受けた経験から、子どもも同じ体験をするのではないかという不安を抱いていることが課題である。</p> <p>◇③④の風景については、刈谷市のグローバル人財※が豊富である特性を生かし、学校のニーズに応じて、ESD※メニューを作成し、様々な国の文化にふれたり、世界の共通の課題を考えるきっかけとなる講座を提供する体制を整えたことは評価できる。</p>

※ESD…Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）の略称

※グローバル人財…刈谷市に多く住んでいる外国人市民や世界で活躍した日本人市民

③ 公共施設・機会

「公共施設・機会」における将来こうしたい！風景について、各種アンケート、ヒアリングをもとにして、その達成状況を評価した結果は、以下のとおりである。

【将来こうしたい！風景】

- ① 誰もが、言葉の壁なく、公共サービスをスムーズに受けられる。
- ② 国際化・多文化共生をすすめる拠点と、それを生かす人材とプログラムがある。
- ③ 様々な国の人々や文化と関わり、尊重し、共生するための市民参加や協働の機会が多様にある。
- ④ 誰もが、言葉の壁なく、災害時・緊急時にも、安心して暮らせるようになっている。



風景事例	◇市役所では、外国人生活相談員が公的手続きの通訳や生活上の困り事相談をしているほか、市職員もポケットクややさしい日本語により対応している。	◇国際プラザでは KIFA※や KIFAV※が、様々な国の文化を知り、様々な国の人と交流することを促進する活動を行っている。	◇外国人のコミュニティに所属する人などの外国人住民が、市の会議の委員として参加したり、KIFA の講座の講師として活躍したりしている。
市民等の意識	<p>【必要な情報入手に関する施策評価】 ◇外国人市民への意識調査では、「刈谷市では、生活に必要な情報を得ることができると思いますか？」の設問に「そう思う」+「どちらかといえば思う」の回答割合は 85.3%となっており、日本人市民の回答割合の 73.2%よりも高い。</p> <p>【行政の制度やサービスの認知度】 ◇外国人市民への意識調査では、「あなたは次の行政の制度やサービスなどがあること、またはその利用方法を知っていますか？」の設問に、日本人市民の回答割合と比較して特に低くなっているものは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設連絡バス「かりまる」44.3%（日本市民 81.1%） ・ 休日診療所や救急医療情報センター32.4%（同 61.7%） ・ 災害時緊急避難所 56.2%（同 78.2%） ・ 死亡時の火葬の手続き 11.9%（同 33.7%） ・ 生涯学習センターや市民館 29.2%（同 50.7%） <p>【母国語でほしい情報】 ◇外国人市民への意識調査では、「あなたが充実してほしい、母国語での情報は何か？（複数回答）」の設問への回答割合の上位 3 位は以下のとおりである。</p>		

- ・保健・医療・福祉の情報 70.3%
- ・災害など緊急時の対応の情報 46.1%
- ・日本語学習の情報 46.1%

【市職員の外国人市民との関わり時の意識】

◇外国人市民と関わりがある市職員への意識調査【令和4（2022）年度実施】では、職務として外国人市民と関わる上での以下の意識（感じること）について、「そう感じる人が多い」＋「国籍と対応の内容によってはそう感じる」との回答割合は以下のとおりである。

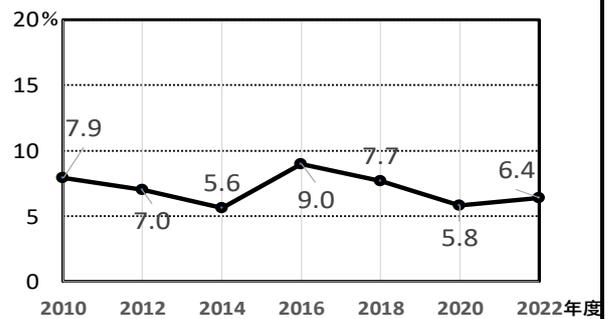
- ・母国語でやり取りしないと十分に意思疎通ができないと感じる 78.6%
- ・送付する文書が日本語だと、内容が伝わらないと感じる 86.9%
- ・母国と日本の制度や習慣が違い理解してもらるのが難しいと感じる 72.5%
- ・苦手意識があり、不安や偏見の気持ちを持ってしまうとを感じる 35.0%

【地震への備えの状況】

◇外国人市民への意識調査では、「あなたの家では、地震などに対して、どのような備えをしていますか？（複数回答）」で「特に備えをしていない」との回答割合は 25.0%となっており、平成22（2010）年度調査の 38.4%と比べて低くなっている。日本人市民の回答割合は 21.1%と同程度になっている。

【国際イベントの参加度】

◇平成22（2010）年の 7.9%からの推移は右図のとおりで、5～8%と横ばいで、特に新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2（2020）年度以降は 6%前後となり、計画目標の 17%を大きく下回っている。



総評

- ◇：成果
- ◆：課題

◇「将来こうしたい！風景」のうち、①の「言葉の壁なく公共サービスをスムーズに受けられる」については、ニーズの高い国籍の言語での通訳・翻訳を行い、できる限り公平な公共サービスの提供を行ってきている。

◆しかし、近年ベトナム住民の急増など通訳・翻訳が必要な言語の多様化がみられること、外国人市民の永住化がみられること、家族と一緒に入国することが可能な在留資格者の増加がみられることに伴って、幼稚園・保育園や学校などで外国につながるのある子どもの保護者とのやり取りに支障が生じており、すべての国籍・立場の外国人市民に対応したきめ細かな公共サービスの提供という点が課題となっている。

◆特に、④の風景については、地震などの災害時、救急などの緊急時には、正確な情報共有のための対応に課題がある。

◇②③の風景については、国際プラザの整備とともに、KIFA や KIFAV を中心に、様々な文化交流の講座やイベントが継続的に行われていること、計画の各重点協働プロジェクトや市の会議において、外国人市民の参加・参画が積極的に行われている。

※K I F A…刈谷市国際交流協会

※K I F A V…刈谷市国際交流協会親善ボランティア

④ 企業・職場

「企業・職場」における将来こうしたい！風景について、各種アンケート、ヒアリングをもとにして、その達成状況を評価した結果は、以下のとおりである。

【将来こうしたい！風景】

- ① 誰もが、その能力を発揮し働く場や機会がある。
- ② 教育や昇格の機会が等しくあり、国際性や多様性に富んだ適材適所がすすんでいる。
- ③ 多くの企業が、地域の国際化や多文化共生に貢献し、働く人が地域や世界とつながっていると実感している。



風景事例	◇外国人を雇用する中小企業において、国籍に関係なく、適材適所の人事が行われている。	◇外国人児童の日本語学習支援を行っているボランティア団体では、市内企業の現役職員のボランティアが活動に参加している。	◇市内企業は、TABLE FOR TWO のプログラムを通じて、令和4(2022)年度に20万食分の給食を開発途上国の子ども達に寄付(全国1位実績)している。
市民等の意識	<p>【働く会社における外国人社員に対する取組】</p> <p>◇外国人市民への意識調査では、「あなたが働く会社は外国人社員のためにどんなことを行っていますか？」の設問への回答割合は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場で外国人社員のことを理解してもらう機会の提供 26.3% ・日本で暮らすための生活サポート 25.1% ・日本語学習や社内のコミュニケーション支援 18.1% ・外国人社員向けのスキルアップ研修の実施 17.0% ・外国人社員が地域の活動に参加することの促進 8.2% <p>【外国人を雇用する中小企業へのヒアリングで聞いた状況】</p> <p>◇②の風景については、外国人だから昇格しにくいということはない。昇格もしている。スキルに見合った職種にいる。</p> <p>◇③の風景については、外国人従業員の学校への講師派遣の可能性は十分あると考えている。技能実習制度の活用が国際貢献につながっている。</p>		
総評	<p>◇各企業においては、ダイバーシティやコンプライアンスが時代のキーワードとなっており、①②の風景は、多くの企業で見られると考えられる。</p> <p>◆外国人からの困りごとの中には、企業とのトラブルもある。</p> <p>◆企業の社会貢献としては、環境や福祉がテーマになることが多く、国際協力や多文化共生をテーマとした取り組みは比較的少なく、重点協働プロジェクトにおいても企業との連携が少ないことが課題である。</p>		
◇：成果 ◆：課題			

⑤ 地球規模

「地球規模」における将来こうしたい！風景について、各種アンケート、ヒアリングを基にして、その達成状況を評価した結果は、以下のとおりである。

【将来こうしたい！風景】

- ① 誰もが、国籍等にとらわれず、同じ地球市民という意識で、相互に認めあっている。
- ② 貧困や環境など世界の共通の課題に対し、刈谷の持つ人的・経済的・技術的な支援や行動によって、人々の自立と共生に貢献している。
- ③ 世界の多様性を活かしあう、人や情報のつながりや都市間の交流・共生がすすんでいる



風景事例	◇国際プラザで、ウクライナの美術学生らの絵画展が開催され、キーウからの避難者を招いて絵への思いや避難生活の様子を聞く会が開催されている。	◇刈谷市は、令和2(2020)年度に、社会貢献への取組としてJICA発行のソーシャルボンド（開発途上国の貧困削減等へのODA資金）への投資を実施している。	◇刈谷市はカナダのミササガ市と姉妹都市となり、相互市民派遣による交流やカナダのストリートホッケーを通じた市民同士の草の根交流が続いている。
市民等の意識	<p>【多文化共生の言葉の認知度】 ◇日本人市民への意識調査では、「あなたは、「多文化共生」の言葉を聞いたことがありますか」の設問に対して、「聞いたことがある」は36.1%であった。平成22(2010)年度の調査では33.1%であり、わずかな増加であった。</p> <p>【日本人市民が考える多文化共生のために日本人市民に必要なこと】 ◇日本人市民への意識調査では、「日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、多様性と活力のある地域社会にしていくために、日本人市民に特に必要だと思うことは何ですか」の設問に対して、上位3位は以下のとおりで、相互に知り合い認め合うための回答が上位となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人に対する偏見や差別意識をもたないようにする 75.4% ・外国人に気軽にあいさつし、会話したりするようにする 49.3% ・日本の生活ルールを守るように外国人市民に呼びかける 47.6% <p>【外国人市民が考える多文化共生のために外国人市民に必要なこと】 ◇外国人市民への意識調査では、「日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、多様性と活力のある地域社会にしていくために、外国人市民に特に必要だと思うことは何ですか」の設問に対して、上位3位は以下のとおりで、</p>		

	<p>日本人市民と同様に相互に知り合い認め合うための回答が上位となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の習慣、生活ルールを守るようにする 82.2% ・日本語や日本の文化を学ぶ 79.9% ・日本人とあいさつしたり、会話したりするようにする 58.9% <p>【日本人市民が体験した外国人市民との心温まるエピソード（抜粋）】</p> <p>◇ブラジル人達が近くの休田を借り、畑として種々の野菜類を作っていて、その精悍な動作に驚かされた。ある時、ブラジルで「蚊よけの草花」と呼ばれている苗をいただき、今も我が家の庭の隅に生きている。</p> <p>◇子どもの友達ファミリーが中国の方で、「餃子の作り方を教えて」と話したら餃子パーティーをしてくれ、手作り餃子や中国の料理をたくさん作ってごちそうしてくれた。おもてなしがすごくて、うれしくて楽しかった。</p> <p>【SDGs の認知度】</p> <p>◇日本人市民への意識調査では、「あなたは SDGs について知っていますか」の設問に対して、「内容を知っていて、関心がある」22.6%、「具体的な内容まで知っている」16.8%、「名前は知っている」42.5%という結果であった。</p> <p>【SDGs の達成に向けた行動実践度】</p> <p>◇日本人市民への意識調査では、「SDGs の達成に向けた次の行動をしたことがありますか」の設問に対して、選択肢の回答割合は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リユースや省エネなど地球環境の保全に配慮した行動 41.4% ・世界の貧困解決や子ども支援のための寄付 18.2% ・フェアトレード商品の購入 13.3% ・SDGs に関する TV 番組の積極的な視聴や講座の受講 9.4% ・SDGs に関連する市民活動への参加 2.5%
<p>総評</p> <p>◇：成果 ◆：課題</p>	<p>◇外国人への偏見や不安な気持ちがあっても、各種交流イベント等で実際に外国人と関わり、知り合うことで、相互理解が進み、互いを認め合う関係ができることも多い。</p> <p>◇近年の SDGs に関するキャンペーンや地域で外国人を見かける機会が増えたこともあり、子どもの頃から外国人が近くにいることが当たり前となり、外国人は共に暮らしているという存在になってきている。</p> <p>◆一方、マスコミで報じられる事件や、習慣の違いや言葉の壁によるちょっとしたトラブルの経験から、関わりのない外国人市民に対する偏見や不安な気持ちを抱くケースもある。</p> <p>◆外国との関係は、強くなっていく傾向であるし、経済的な観点で外国人を受け入れていくという国や経済界の方針もあり、地域における国際化・多文化共生を進めていくことは、より大切な課題になるといえる。</p>

3 第3期重点協働プロジェクト

A 共生の地域づくり発展プロジェクト

① 目標

第3期当初に掲げた目標と取り組み内容、プロジェクト工程は下図表のとおりである。

● 目標と取り組み内容

目標	取り組み内容
目標A ：モデル地域におけるプロジェクト活動に、外国人メンバーが参加・定着している。	□ 絞り込んだ対象者の課題・ニーズに応じた企画とモデル地域のプロジェクト活動とのマッチングの立案と実施支援 □ 外国人市民が参画したくなる仕組みの検討支援やキャンペーン実施支援
目標B ：モデル地域の市民団体による自主的継続的な活動ができる体制が整い、次の地域の事業展開に向けた方向性が決定している。	□ 地域市民団体による自主的継続的な活動に向けた体制づくり支援 □ 市内他地域への事業展開に向けた方向性の検討

● プロジェクト工程

目標	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
目標A 外国人メンバーの参加・定着	絞り込んだ対象者の課題・ニーズに応じた企画立案と実施			
	外国人市民が参画したくなる仕組みの検討やキャンペーン実施			
目標B 継続的体制整備 他展開方向決定	自主的継続的な活動に向けた体制づくり		自主運営の見守り	
	他地域展開の検討			

※新型コロナウイルス感染症の蔓延により、計画期間（プロジェクト）を2023年度に延長しております。

② 実績と評価

第3期当初に掲げた取り組み内容ごとに5年間の実績を整理し、それによる目標達成度の評価結果は下表のとおりである。

実績	目標A 外国人メンバーの参加・定着	◇コミュニティガーデンであるワールド・スマイル・ガーデンーツ木(略称:ワールドデン)における第3期の活動実績の変遷																				
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">区分</th> <th style="width: 15%;">2018</th> <th style="width: 15%;">2020</th> <th style="width: 15%;">2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">合同作業</td> <td>回数(回)</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>全参加者(人)</td> <td>521</td> <td>386</td> <td>496</td> </tr> <tr> <td>うち外国人(人)</td> <td>128</td> <td>120</td> <td>211</td> </tr> <tr> <td>外国人比率(%)</td> <td>24.6</td> <td>31.1</td> <td>42.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	2018	2020	2022	合同作業	回数(回)	17	14	15	全参加者(人)	521	386	496	うち外国人(人)	128	120	211	外国人比率(%)	24.6	31.1
区分	2018	2020	2022																			
合同作業	回数(回)	17	14	15																		
	全参加者(人)	521	386	496																		
	うち外国人(人)	128	120	211																		
	外国人比率(%)	24.6	31.1	42.5																		
目標B-1 継続的体制整備	◇ワールドデンに外国人メンバーが参加・定着するために実施した手立て・工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・近くの教会への訪問と参加の呼びかけ(2018) ・地元企業の外国人へ声をかけ、多文化共生チームとして一ツ木地区運動会に参加(2019) ・合同作業日に青空日本語教室を開催(2019) ・愛知教育大学から留学生が公共施設連絡バスを使ってワールドデンへ行くための講座を開催(2019) ・バンブーダンスなどフィリピン文化体験イベント(2020) ・KIFAV 文化交流グループ、アイシン高等学園を招いての芋掘り(2020) ・NHK や KATCH による TV 取材・発信、大学等からの視察の受入(継続) ・Facebook による活動の定期的な多言語での発信(継続) ・外国人参加者による活動の様子のリアルタイム動画配信(継続) ・活動参加者の名札を作って名前呼び合えるように工夫(継続) ・看板への外国語表記(継続) 																					
	◇第3期初年度(2018 年度)の3回の実行委員会、翌年度(2019 年度)の最初の実行委員会を通して、ワールドデンが市からの支援から自立して運営していくための方向付けとサポートを行った。																					
	◇実行委員会の回数を減らし、合同作業後のプチミーティングを開催することで、メンバーの負担減を図った。																					
	◇その後は、年1~2回のメンバー全員による実行委員会と、その前に主要メンバーによる実行委員会打合せを、ワールドデンが主体的に行った。この実行委員会には市職員も参加し、必要に応じて助言、サポートを行った。																					
	◇会計などの運営を 2019 年度までは、市職員が支援していたが、2020 年度からは北部地区社会福祉協議会の協力を得て自主運営へ移行した。																					
	◇活動資金として、一ツ木自治会、社会福祉協議会などの各助成金や補助金を活用している。																					

	<p>目標B-2</p> <p>他展開方向決定</p>	<p>◇2019 年度後半から、刈谷市南部地域での展開を考え、キーパーソン3人に協力の打診を始めた。</p> <p>◇その後、新型コロナウイルスの影響により一時停滞していたが、2021 年 9 月にキーパーソン3人に参加してもらい、第1回「南部版ワールデン(仮称)準備委員会」を開催した。</p> <p>◇同準備委員会の第3回目からは小垣江地区の地区関係者(地区長、青年団)も参加し、小垣江地区での多文化共生に向けた5つのビジョンを立て、その実現のために、畑活動、イベントなどに取り組んでいくことを決めた。</p> <p>◇団体名を「輪～ど・ビレッジ・小垣江」と定め、2022 年度には、具体的な畑候補地における利用計画構想について検討したり、地域の合意形成について調整を行ったりした。</p> <p>◇2022 年 10 月に、フィリピン、ベトナム、スリランカの外国人協力者にも企画に携わってもらい、「MEET THE WORLD」イベントを行い、地域の外国人 25 人、日本人 20 人が参加して、各国のクイズ・遊び・お茶やお菓子を楽しみながら、交流した。</p>	
<p>評価</p>	<p>目標A</p> <p>外国人メンバーの参加・定着</p> <p>◇…成果 ◆…課題</p>	<p>達成度</p> <p>◎</p>	<p>◇第 3 期の当初は、外国人はイベントには多く集まるが、合同作業には参加・定着しないという課題を抱えていたが、外国人メンバーの参加・定着のための手立てや工夫が、功を奏しはじめ、合同作業へ参加する外国人の固定的なメンバーが徐々に増えてきた。</p> <p>◇2022 年度には、全体に占める外国人の割合が 42.5%程度となり、外国人メンバーの参加・定着を進めることができた。</p>
	<p>目標B-1</p> <p>継続的体制整備</p> <p>◇…成果 ◆…課題</p>	<p>達成度</p> <p>◎</p>	<p>◇【体制】第 3 期の当初は、実行委員会の運営、会計処理などについて、市が関わって多くの役割を担ってきたが、2020 年度からは、運営に関わるすべてを、「ワールデン」という地域団体が地区社会福祉協議会の協力を受けて、主体的に行っていく体制を構築できた。</p> <p>◇【資金】ワールデンの設置当初の整備資金や活動資金は、愛知県国際交流協会の支援を受けて確保したが、その後の継続的に必要となる活動資金については、様々な機関の助成金や補助金を活用して、メンバー個人の負担に頼らない財源確保ができた。</p>
	<p>目標B-2</p> <p>他展開方向決定</p> <p>◇…成果 ◆…課題</p>	<p>達成度</p> <p>○</p>	<p>◇一ツ木町を超えて、刈谷市で最も外国人が多い地区となった小垣江町において、キーパーソンや地区役員メンバーを集め、「輪～ど・ビレッジ・小垣江」という活動団体を立ち上げることができた。</p> <p>◇キーパーソンとのミーティングを重ねて、ビジョンや具体的な活動方針を決め、外国人との交流イベントを実施したり、畑候補地の確保に向けて、検討することができた。</p> <p>◆キーパーソン中心のメンバーの裾野を広げる、畑の場所を決める、外国人を含む地域住民へ活動を浸透させるなど、地域の日本人と外国人の参加が定着するような活動にしていくために、課題が残る。</p>

※評価凡例 ◎…十分に達成している、○…取り組みにより進展は見られたが課題が残る、△…あまり進展なし

B 外国人市民の参画と共助プロジェクト

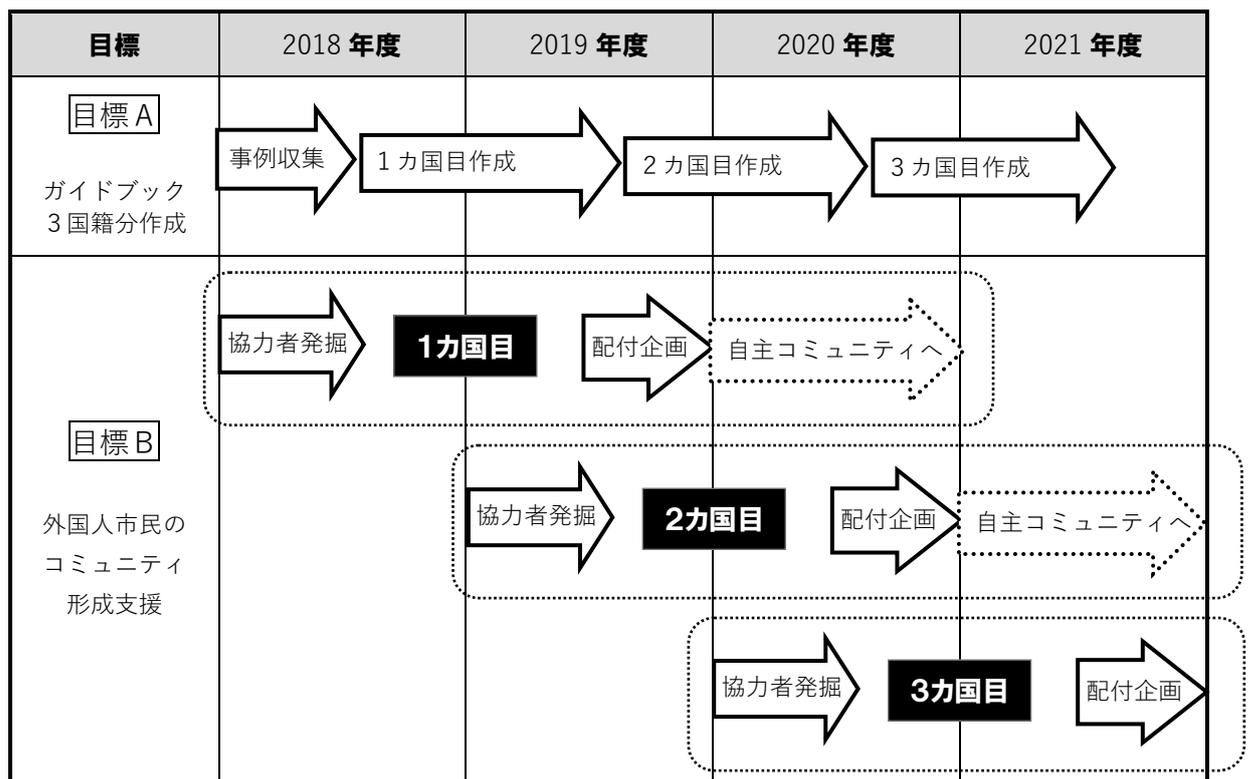
① 目標

第3期当初に掲げた目標と取り組み内容、プロジェクト工程は下図表のとおりである。

● 目標と取り組み内容

目標	取り組み内容
目標A ：外国人市民が刈谷市で生活するうえで役立つガイドブックを、その国の外国人市民が中心となって3カ国分を作成する。	㊦ 全国優良事例の収集 ㊧ 外国人市民の協力者の発掘 ㊨ 外国人市民による外国人市民のための生活ガイドブックの作成
目標B ：ガイドブック製作・配布への参画を契機に、外国人市民の互助のためのコミュニティが形作られている。	㊩ 外国人市民中心のガイドブック製作委員会の開催 ㊪ ガイドブック配布を活用したコミュニティづくりに資する企画の実施

● プロジェクト工程



※新型コロナウイルス感染症の蔓延により、計画期間（プロジェクト）を2023年度に延長しております。

② 実績と評価

第3期当初に掲げた取り組み内容ごとに5年間の実績を整理し、それによる目標達成度の評価結果は下表のとおりである。

実績	目標A ガイドブック 3国籍分作成	<p>【1カ国目：フィリピン】</p> <p>◇2018～2019 年度にかけて、ワールデンの活動に参加していたフィリピン人がキーパーソンとなって、フィリピン人メンバーを集めて、計 12 回のミーティングを行い、その中で、①自分たちの団体紹介、②刈谷市の英語が通じる病院、フィリピンフードのお店、楽しめる公園、生活に役立つ公共施設の場所・連絡先・解説、③日本に来る際の心得の記事を掲載した「NEWSLETTER KABARANGAY Vol.1」を製作、発行した。</p> <p>【2カ国目：ベトナム】</p> <p>◇2019～2020 年度にかけて、KIFA で活動していたベトナム人がキーパーソンとなって、ベトナム人メンバーを集めて、計 9 回のミーティングを行い、その中で、①自分たちの団体紹介、②よく利用する公共施設・病院・お店・公園などの紹介の記事を掲載した「KARIYA XIN CHAO」を製作、発行した。</p> <p>【3カ国目：ブラジル】</p> <p>◇2020～2022 年度にかけて、もともと本市の多文化共生推進に関わりがあったブラジル人 4 人がキーパーソンとなって、計 12 回のミーティングを行い、その中で、日本での生活に役立つ動画を作り、発信することを決め、第1弾として「日本での生活ガイド「家族が亡くなった！編」を製作、Youtube チャンネルで発信した。</p> <p>【フィリピン・ベトナム・ブラジル共通】 つなぎ方ガイドブック</p> <p>◇フィリピン人コミュニティの代表から個人として同国人の相談を受ける大変さについて聞き取り、それを解決する方法の一つとして、相談を受けた時にどこにつないだらよいかをまとめた「外国人市民の困りごと相談つなぎ方ガイド in 刈谷」を作成した。</p> <p>◇同ガイドを作成するにあたっては、フィリピン人、ベトナム人、ブラジル人の各コミュニティのメンバーに、どんな困りごとがあるか、相談を受けた時にどうしているかなどをヒアリングし、より必要性に応じたガイドとした。</p> <p>◇同ガイドは、「つなぎびと」が重要な役割を担うことから、「つなぎびと」養成講座を SBK メンバーに向けて行った。</p>
	目標B 外国人市民の コミュニティ 形成支援	<p>【1カ国目：フィリピン】</p> <p>◇ガイドブック作成のためのミーティングの参加者で、フィリピン人コミュニティ SBK(Samahana sa Barangay Kariya city)を立ち上げ、活動目標、活動内容を決めて、会則を作り、設立総会を開催する支援を行った。</p> <p>◇設立総会では、合わせてフィリピンフェスを開催し、フィリピンのバンブーダンス、料理、音楽を楽しみ、より多くのフィリピン人に団体を知ってもらうことができた。</p> <p>◇2020 年度以降は、コミュニティとして自立して活動し、定期的にミーティングをしたり、バンブーダンスを様々なイベントで披露したり、フィリピン人同士で交流するイベントを開いたり、県内や全国的な会合に参加したりと、活動の幅を広げている。メンバーは 30～50 人程度となっている。</p> <p>【2カ国目：ベトナム】</p> <p>◇ガイドブック作成のためのミーティングの参加者で、ベトナム人コミュニティ VNK(ベトナム)</p>

		<p>ム in 刈谷)を立ち上げ、活動目標、活動内容を決めて、会則を作る支援を行った。</p> <p>◇市内のベトナム人に周知するため、イベント型の設立総会を開催しようとしていたが、新型コロナウイルスの影響で開催できない期間が続き、現時点でも開催に至っていない。</p> <p>◇団体設立後は、日本で育ったベトナム人の子どもたち向けに母語教室を定期的に開催していたが、新型コロナウイルスの影響などで現在は休止となっている。</p> <p>◇2021年度は、主要メンバーの市外への転出、仕事の多忙化もあり、活動自体が停滞した。</p> <p>◇2022年度は、新たなメンバーへ呼びかけを行い、新たな VNK としての活動再開を目指している。</p> <p>【3カ国目:ブラジル】</p> <p>◇日本での生活ガイド「家族が亡くなった！編」の動画作成・配信のためのミーティングの参加者で、ブラジル人コミュニティ OasisBrasil を立ち上げ、新たに OasisBrasil というコミュニティを紹介する動画等の作成を行っていくことを決めて、検討を進めている。</p>	
評価	<p>目標A</p> <p>ガイドブック 3国籍分作成</p> <p>◇…成果 ◆…課題</p>	<p>達成度</p> <p>◎</p>	<p>◇目標どおり、3カ国分のガイドブック等を作成することができた。 (フィリピン、ベトナムは紙媒体のガイド、ブラジルは動画)</p> <p>◇「外国人市民の困りごと相談つなぎ方ガイド in 刈谷」を、在住外国人にヒアリングしながら作成することができた。</p>
	<p>目標B</p> <p>外国人市民の コミュニティ 形成支援</p> <p>◇…成果 ◆…課題</p>	<p>達成度</p> <p>○</p>	<p>◇フィリピンについては、各種支援の結果、自主的な活動団体としてフィリピン人コミュニティが形成でき、様々な活動をしている。</p> <p>◆ベトナムについては、活動が軌道に乗り始めたところで、新型コロナウイルス感染拡大に加え、主要メンバーの離脱もあって、ベトナム人コミュニティが形成できているとはいえない状況にある。</p> <p>◆ブラジルについては、在住ブラジル人の生活に役立つ動画の撮影をしていくグループとして活動は続けているが、メンバーの人数が少数であり、ブラジル人コミュニティ形成ができているとまではいえない状況にある。</p>

※評価凡例 ◎…十分に達成している、○…取り組みにより進展は見られたが課題が残る、△…あまり進展なし

C ESD推進プロジェクト

① 目標

第3期当初に掲げた目標と取り組み内容、プロジェクト工程は下図表のとおりである。

● 目標と取り組み内容

目標	取り組み内容
目標A ：グローバル [*] 人財及びファシリテーターが継続的に十分確保され、全てのプログラム提供をできる体制が整っている。	<input type="checkbox"/> 全メニューが安定的に提供できるグローバル人財の確保策 <input type="checkbox"/> メニューの安定した仕組み・体制づくり(検討会議の開催)
目標B ：グローバル人財を生かしたESD [*] 推進メニューのプログラムを様々な場所で開催し、受講者数を拡大する。	<input type="checkbox"/> 学校・教育委員会との連携・提供(試行実施・改善→本格実施) <input type="checkbox"/> 刈谷市国際プラザの活用

※グローバル人材…刈谷市に多く住んでいる外国人市民や世界で活躍した日本人市民
 ESD…Education for Sustainable Development(持続可能な開発のための教育)の略称

● プロジェクト工程

目標	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
目標A 質の高いメニュー提供の体制構築	全メニュー向けグローバル人財の確保			
	安定した仕組み・体制づくり(検討会議)		当該事業主体による安定実施	
	教員研修でのメニューの紹介・提供			
目標B ESD推進メニュー受講者数拡大	学校への提供(試行実施・改善)		学校への提供(本格実施)	
	刈谷市国際プラザでの一般への提供(年間1~2回)			

※新型コロナウイルス感染症の蔓延により、計画期間(プロジェクト)を2023年度に延長しております。

② 実績と評価

第3期当初に掲げた取り組み内容ごとに5年間の実績を整理し、それによる目標達成度の評価結果は下表のとおりである。

実績	目標A-1 質の高いメニュー提供の体制構築	<p>◇ESD 推進メニューについては、2018 年度に 13 のプログラムでスタートしたが、2019 年度からはより選びやすくするため 6 つのプログラムに集約しつつ、学校のニーズに応じて、臨機応変にプログラムを修正して実施するようにした。</p> <p>◇さらに、2022 年度には、中学校のニーズを合わせて、全く新しい ESD のプログラムを作成し、英語の授業として提供をすることができた。</p> <p>◇グローバル人材の確保については、愛知教育大学国際交流センターと連携し、新型コロナウイルスの感染拡大前(2019 年)までは年度当初に派遣できる留学生の情報を共有した。また、市内の国際協力 NPO、市内の外国人コミュニティ団体と連携し、人材を確保することができた。</p> <p>◇年度当初には、ESD推進メニュー講座(ワールド・スタディ講座)を紹介するリーフレットを市内小・中学校に配付し、周知を図った。</p>																																			
	目標B ESD推進メニュー受講者数拡大	<p>◇第3期各年度のワールド・スタディ講座の開催実績</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">区分</th> <th style="width: 15%;">2018</th> <th style="width: 15%;">2019</th> <th style="width: 15%;">2020</th> <th style="width: 15%;">2021</th> <th style="width: 15%;">2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施学校数(校)</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>実施クラス数(クラス)</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>参加人数(人)</td> <td>248</td> <td>98</td> <td>40</td> <td>121</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>講師【グローバル人材】</td> <td>元青年海外協力隊 留学生 在住外国人</td> <td>NPO 職員 留学生</td> <td>NPO 職員</td> <td>NPO 職員 留学生</td> <td>在住外国人</td> </tr> <tr> <td>テーマ国</td> <td>インドネシア ケニア 韓国 マラウイ ミャンマー ベトナム</td> <td>タイ 台湾 ベナン</td> <td>タイ</td> <td>タイ インドネシア</td> <td>フィリピン</td> </tr> </tbody> </table> <p>◇2020 年度から学校などの教育の場で、本格実施することを目指して、講座のリーフレットを作成したが、2019 年度末からは新型コロナウイルスの影響が大きく、2019 年度に1校が中止となり、その後も講座へ申し込みをする学校は少なかった。2019 年度以降は、2018 年度と比較して、実施回数、実施クラス数、参加人数のいずれも大きく減少した。</p> <p>◇2020～2021 年度の高校での講座はオンラインでの実施となった。</p>	区分	2018	2019	2020	2021	2022	実施学校数(校)	4	2	1	2	1	実施クラス数(クラス)	9	3	1	3	1	参加人数(人)	248	98	40	121	40	講師【グローバル人材】	元青年海外協力隊 留学生 在住外国人	NPO 職員 留学生	NPO 職員	NPO 職員 留学生	在住外国人	テーマ国	インドネシア ケニア 韓国 マラウイ ミャンマー ベトナム	タイ 台湾 ベナン	タイ	タイ インドネシア
区分	2018	2019	2020	2021	2022																																
実施学校数(校)	4	2	1	2	1																																
実施クラス数(クラス)	9	3	1	3	1																																
参加人数(人)	248	98	40	121	40																																
講師【グローバル人材】	元青年海外協力隊 留学生 在住外国人	NPO 職員 留学生	NPO 職員	NPO 職員 留学生	在住外国人																																
テーマ国	インドネシア ケニア 韓国 マラウイ ミャンマー ベトナム	タイ 台湾 ベナン	タイ	タイ インドネシア	フィリピン																																

評 価	目標A 質の高い メニュー提供 の体制構築 ◇…成果 ◆…課題	達成度 	<p>◇グローバル人材の安定的な確保については、愛知教育大学の留学生、市内の NPO 団体の職員、外国人コミュニティ団体の在住外国人との連携により、比較的安定的に人材を確保する仕組みを作ることができた。</p> <p>◆グローバル人材のうち、企業の海外駐在経験者とその配偶者については、連携できる企業等が見つからない。</p> <p>◆安定した仕組み・体制づくりについては、ワールド・スタディ講座への申込が増えた場合を想定して、事業実施体制の整備を検討していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で申込件数が少ない状態が続いたことから、検討は進んでいない。</p>
	目標B ESD推進 メニュー 受講者数拡大 ◇…成果 ◆…課題	達成度 	<p>◆新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きく、受講者拡大には至っていない。</p> <p>◆国際プラザでの一般の人へ向けた講座の実施はできていない。</p> <p>◆2023 年度以降は、ポストコロナとなり、学校からの依頼が徐々に回復してくると考えられるが、地球市民(国際的な視点を持つ市民)の育成という目的は踏まえつつ、SDGs など社会や学校のニーズに応じて、柔軟にプログラムを修正して提供するなどし、受講者の拡大を図っていくことが課題である。</p>

※評価凡例 ◎…十分に達成している、○…取り組みにより進展は見られたが課題が残る、△…あまり進展なし

4

各取り組み施策

①「地域」

No.1 地域に交流する場・機会をつくる

外日

「地域」のビジョン実現のためには、まず日本人市民と外国人市民が「知りあう」ことが大切です。しかし、日本人市民の77%は、外国人市民と関わりがなく、外国人市民の友人・知人がいるという人も9%に過ぎません。一方、外国人市民の75%、日本人市民の52%が、双方と交流をしたいと望んでいます。こうした状況やニーズを踏まえ、地域において「知りあう」ために、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 市民館、公園など既存の地域の場で出会い、おしゃべりする機会をつくる
- ② レクリエーション、スポーツ、食事会などでふれあう機会をつくる
- ③ 子どもを介し、家族ぐるみで遊んだり、交流したりする機会をつくる
- ④ 外国人市民のコミュニティーに日本人市民が参加する機会をつくる
- ⑤ 「まちの縁側」など誰でも気軽に集まれる場をつくる



取り組み内容	①…一ツ木市民館、小垣江市民館での多文化交流イベントの開催< I > (ワールド持ち寄りパーティー、フィリピンイベント、ミートザワールドイベントなど) ①…外国人グループのパーティーにおいて市民館を利用 ②…一ツ木町、小垣江町でのレクリエーション、スポーツ、食事の要素を入れた交流< I > (世界の遊び、バンブーダンス、サッカー大会、各国料理・お菓子の持ち寄りなど) ③…①②の際における子どもの参加< I > ⑤…コミュニティガーデン(一ツ木町)の整備・運営、小垣江町への展開協議中< I >		
達成度	○	取り組み内容【第1期・第2期】 ①②③⑤	取り組み内容【第3期】 ①②③⑤
総評 ◇:成果 ◆:課題	◇市内で外国人市民が多い一ツ木町及び小垣江町をモデル地域として、取組を推進した。一ツ木町ではワールデンの拠点整備の効果から、地域の住民団体が中心となって、様々なイベントを開催したり、日々の野菜栽培・収穫をしたりする中で、日本人市民と多くの国の外国人市民が出会い、ふれあうことができ、約10年継続してきた。また、小垣江町では、地域の外国人と日本人が外国の職や遊びを通して交流するイベントを実施した。 ◆ワールデンへの地域住民の参加が広がっていないこと、外国人コミュニティが市民館を利用していても日本人市民との接点がないことなど、より参加しやすい機会づくりが課題である。また、モデル地域の成果を他地域に広げることが課題である。		

注:< I >は、「地域共生関連」の重点協働プロジェクトによるもの(以下、同じ)。

地域との関わりを持つためには、地域についての情報を共有することが必要です。特に、外国人市民は、ある程度の日本語会話ができて、読み書きを苦手とする場合が多いことから、多言語あるいはやさしい日本語による情報の提供が求められています。一方、情報発信者の1つである地域団体は、地域のどこにどの国の人が住んでいるかわからないことを課題に挙げています。こうした状況を踏まえ、地域の情報の共有を図るために、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 地域の行事やルールを伝える新聞やリーフレットなどの媒体をつくる
- ② 外国人市民のニーズに合わせ、多言語化、日本語ルビ化して提供する
- ③ 外国人市民から情報を発信する機会をつくる
- ④ 外国人市民の居住状況を、地域レベルで把握・共有する



取り組み内容	①…モデル地域でのプロジェクトの広報誌の発行(全戸配付)〈Ⅰ〉 (一ツ木町、小垣江町での外国人交流イベント、一ツ木町のワールデン活動等) ①…一ツ木町のワールデンの Facebook ページの作成、チラシの作成〈Ⅰ〉 ①…一ツ木町での外国人向け防災講座 ②…一ツ木町のワールデンにおける広報誌の多言語化、Facebook によるやさしい日本語による広報〈Ⅰ〉 ③…外国人市民によるコミュニティを通じた Facebook での情報発信〈Ⅱ〉 ④…モデル地域の外国人の居住状況を広報誌にまとめて、地域住民へ発信〈Ⅰ〉		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】 ①②③④	取り組み内容【第3期】 ①②③④
総評 ◇: 成果 ◆: 課題	◇モデル地域において、活動の周知や多文化共生の機運の醸成のために、広報誌を作って、全戸配付した。必要に応じて多言語化し、情報発信を行った。 ◇また、一ツ木町のワールデンでは、地域団体により Facebook ページが定期的に情報更新されるとともに、参画している外国人市民による動画配信も行われるなど、活発な情報発信が行われている。 ◆全国的に有名になり、TV取材も多いワールデンであるが、ワールデンの参加者のうち地元在住の人の割合が、外国人市民、日本人市民ともに比較的少なく、地域の活動として、それらの人に届き、参加したいと思えるような情報発信が課題である。		

〈Ⅱ〉は、「外国人支援・参画・共助関連」の重点協働プロジェクトによるもの。

地域における共生のためには、日本人市民と外国人市民との関係に関わらず、そこに住む人同士のつながりと信頼関係をつくる必要があります。そうした関係づくりのためには、地域における様々な活動を共にすすめることが大切です。また、外国人市民は、地域団体への加入率は低いものの、その半数以上が社会に貢献したいという気持ちを持っています。こうした状況を踏まえ、地域の活動を共にすすめるために、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 清掃・祭り・子ども会など既存の自治活動への参加を多方面から呼びかける
- ② 外国人市民を交え、新たな地域貢献活動を共に創り出す
- ③ 外国人市民に地域の役職を担ってもらうなど「参加から参画」をすすめる
- ④ 地域をよくするために対話する場を設ける



取り組み内容	①…一ツ木町地区運動会へ多文化共生チームの参加<I> ②③…地域共生関連の重点協働プロジェクトへの外国人市民の参画<I> (一ツ木町フィリピン交流イベント、ワールデン実行委員会、小垣江町交流イベント) ④…一ツ木町でのフィリピン・中国・ブラジル国籍別サロン<I>		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②③④	②③
総評	◇地域共生関連の重点協働プロジェクトで実施するイベントや活動には、必ず地域の外国人市民に声を掛け、企画段階から参画してもらっている。 ◇一ツ木町では、ワールデン活動だけでなく、地域活動にも外国人市民に参加してもらおうと、地域の中小企業と連携し、地区運動会に多文化共生チームとして参加したり、盆踊りへの参加を勧めたりし、多面的に外国人市民に地域に関わってもらう働きかけをした。 ◆本計画第3期は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、一ツ木町においても外国人市民の地域活動への参加は難しくなった。また、外国人市民は、具体的な役割のない企画検討会議への参加はモチベーションを保つのが難しい。こうしたことも踏まえ、いかに、「参加から参画」、「対話の場」を作っていくかが課題である。		
◇:成果 ◆:課題			

本市には、世界の約50か国の外国人市民が住んでおり、多様な文化を知ることができる潜在的機会に恵まれています。一方で、文化や習慣が異なることで、不安や摩擦をうみ、偏見や差別を助長している現実もあり、地域がその現場となっています。こうした状況を踏まえ、外国文化に出会い、互いの文化や習慣を肯定的に受けとめ理解することが大切と考え、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 市民館などで外国人市民の出身国の文化をまなぶ機会をつくる
- ② 地域の祭りなどで歌や踊りなど相互の文化を披露できる機会をつくる
- ③ 相互の家庭料理や伝統的な生活を体験できる機会をつくる
- ④ 伝統的な歳事や季節の行事を共に楽しむ機会をつくる



取り組み内容	①…外国人市民の母国文化や日本の文化等をお互いに学び交流するイベントの開催<I> (一ツ木町のフィリピンイベント、小垣江町の交流イベントでのクイズ・遊び) ②…ワールデンにおけるフィリピン人コミュニティSBKによるバンブーダンス披露<I> ③…外国人市民の母国の料理で交流するイベントの開催<I> (一ツ木町のフィリピンイベント、ワールド持ち寄りパーティー、ワールデンイベントでの外国料理の提供、小垣江町の交流イベントでのベトナム・フィリピン・スリランカのお菓子・飲み物の提供など) ③…ワールデンでの各国野菜の栽培、外国人市民による野菜を使った各国料理の紹介 ④…一ツ木町での餅つき大会		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②③④	①②③
総評	◇: 成果 ◆: 課題 ◇モデル地域とした一ツ木町及び小垣江町で行ったイベントや活動において、地域の外国人と日本人と一緒に参加することで、互いの文化に出会い学ぶ機会を作ることができた。		

No.5 地域に相談できる人をつくる

外

外国人市民に対する相談は行政が行うものもありますが、地域で暮らし生活するうえでの不安や悩み、地域が生活圏である子どもに関する不安や悩みなどについては、地域できめ細やかに相談できる人が、家族や親族以外にもいると多面的な情報が得られて安心できます。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 外国人市民のニーズに対応できるまちづくりコーディネーターを養成する
- ② 外国人市民と日本人市民が家族ぐるみの関係を育むしくみをつくる



取り組み内容	①…市民館やワールデンで各イベントへの参加・参画による関係づくり<Ⅰ> ①…ワールデンの地域団体による自主運営化<Ⅰ> ②…モデル地域の活動やイベントへ親子での参加を推進		
達成度	○	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①	①②
総評	◇一ツ木町、小垣江町のモデル地域でのプロジェクト活動に参画した日本人市民メンバーが、そこに参加した外国人市民と活動中のおしゃべり等を通して、気軽に相談できる顔が見える関係性がある程度構築できた。 ◆このような活動を通してまちづくりのコーディネーターとしての素養を育むことにつながった側面はあるが、体系的な取り組みにはなっていない。 ◆また、畑作業を通じた「家族ぐるみ」の関係づくりの体制を作ろうとしたが、継続的な実施はできていない。		
◇: 成果 ◆: 課題			

No.6 あいさつしあえるようにする

日外

地域におけるあいさつが多文化共生の第一歩です。特に、異国の地に来た外国人市民にとって、あいさつで話しかけられることが、地域に受け容れられているという安心感につながります。そのために、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 地域におけるあいさつ運動をすすめる
- ② 外国人市民の母国語によるあいさつを学ぶ機会をつくる



取り組み内容	①…モデル地域での交流イベントでの各国あいさつの紹介<I> ①…ワールデン活動において地域住民への積極的なあいさつ実施<I> ②…ワールデン活動において母語・母文化を体験するイベントの開催<I>		
達成度	○	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②	①②
総評	◇一ツ木町をモデル地域として行った活動では、外国人市民の参加があるため、必要に応じて外国人市民の母国語でのあいさつについて周知し、声かけする機会は多々あった。また、これらの活動を通じて顔見知りになった地域の日本人市民と外国人市民は、日頃会った時にあいさつするようになった。 ◆地域をあげての「運動」といえるところまでは広がっていない。		
◇:成果 ◆:課題			

② 「教育の場」

No.1 様々な国の人や文化にふれる機会をつくる

全

国際化が進む世界の中で、国際的視野を持ち、共生していくためには、子どもの頃から多様な文化に出会い、それを受容する心を育てていくことが大切です。学校では、「生きる力」を育てるために、総合的な学習のための時間があり、「国際理解」も取り組むテーマに位置づけられています。また、本市には国際展開している企業が多く、半年以上の海外滞在経験者は推定で約8,000人います。そうしたことを踏まえ、すべての子どもを対象に、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 様々な国、多様な文化に、肯定的に出会う機会を充実させる
- ② 生きた教材、海外で活躍した人の授業での活用を充実させる
- ③ 給食や家庭科などで外国の食文化にふれる機会を充実させる
- ④ 生きた外国語をまなび、使う機会を充実させる
- ⑤ 多様な外国人と出会い交流し、友だちになれるような機会をつくる
- ⑥ 留学の機会や訪問国を多様にする
- ⑦ 海外校との提携やユネスコスクール[※]登録などによる学校の国際化を図る

※ ユネスコスクール：世界の学校と生徒間・教師間で交流し、情報や体験を分かち合い、地球規模の課題に子どもが主体的に取り組めるよう教育をめざしているユネスコに登録した学校。



取り組み内容	①②…グローバル人材(刈谷市に住む外国人、世界で活躍した経験のある刈谷市民のこと)を生かしたワールド・スタディ講座の小・中学校・高校での実施<Ⅲ> ①⑤…KIFAVによる日本語教室の外国人学校訪問 ②④…ALT、ボランティアを活用した各学校での外国語・国際理解授業 ④…中高生イングリッシュ・キャンプ ⑤…国際交流フェスタ等への高校生の参加 ⑥…各高校における海外校との交換留学等 ⑦…刈谷高校・刈谷北高校・愛知教育大学附属高校のユネスコスクールへの登録		
達成度	○	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②④⑤⑥⑦	①②④⑤⑥⑦
総評	◇学校現場では、グローバル化の進展とともに、様々な国の人や文化にふれる機会をつくる取組が自主的に行われている。 ◇愛知教育大学の留学生、市内在住の外国人市民を活かして、多様な文化を知り、交流する仕掛けとして、「ワールド・スタディ講座」のメニューと実施体制を整えた。第3期には中学校の要望を受けて、英語の授業の一環として、防災を観点とした多文化共生についての講義を在住フィリピン人が講師となって実施した。 ◆ワールド・スタディ講座の実施件数は、新型コロナウイルスの影響もあり、第3期は年間1～2校にとどまっており、今後の実施拡大が課題である。		
◇:成果 ◆:課題			

<Ⅲ>は、「ESD 関連」の重点協働プロジェクトによるもの(以下、同様)。

No.2 子どもの学校生活をサポートする

外

本市の小・中学校に在籍する外国籍児童・生徒は、平成23年（2011年）10月末現在200人で、平成14年（2002年）以降増加傾向にあります。国籍別には、フィリピンが89人と最も多く、ブラジル68人、中国17人、ペルー9人などとなっています。こうした外国にルーツを持つ子どもの多くは、日本語の指導をはじめとして学校生活や将来に対するサポートを必要としています。こうした状況を踏まえ、必要に応じて、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 通訳・指導員等による日本語・学習支援を充実させる
- ② 授業外で学校生活を支援するプレクラスを充実させる
- ③ 学校と大学や市民ボランティアとの連携による取り組みを充実させる
- ④ 中学校卒業後の日本での進学、就職、自立についてのサポートを行う
- ⑤ 宗教などを背景とした食や習慣について理解や対応を行う



取り組み内容	①⑤…外国人児童生徒語学指導員巡回指導（小中学校、幼稚園）による日本語指導等 ②…プレスクール（クラス）の開設 ③…ボランティア団体による取り出し授業及び放課後日本語教室、愛知教育大学のよる外国人児童生徒支援プロジェクト、 ③…外国人児童生徒指導関係者のための共同研修 in 刈谷（AIA※） ④…外国につながる子どもと保護者のための進路説明会（KIFA）		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②③④⑤	①②③⑤
総評	◇外国人児童生徒に対する学校生活のサポートは、令和5（2023）年度現在、ポルトガル語、タガログ語、中国語の4名の語学指導員が市内の各小・中学校や幼稚園を巡回し、日本語の指導を行ったり、子どもや親の相談に応じたりしている。特に外国人児童が多いかりがね小学校、朝日小学校ではプレスクールを開設し、日本語指導などを行っている。 ◇また、ボランティア団体が取り出し授業を行ったり、愛知教育大学ボランティア学生が希望校に学習支援を行っている。 ◇行政は公的支援として面的に巡回指導を行い、ボランティアは個別ニーズに対応しており、外国人児童生徒の学校生活のサポートは比較的充実している。 ◆在住ベトナム人の急増、在住外国人の国籍多様化に伴い、現在の語学指導員では対応ができない外国人児童生徒が増えている。また、外国人市民の永住化に伴い、その外国人児童生徒が高校生や社会人になるまで、日本で生活するケースも増えてきており、中学卒業後の進路選択をサポートすることが求められる。		
◇: 成果 ◆: 課題			

※AIA…愛知県国際交流協会

子どもを持つ外国人保護者の55%が「子どもへの差別やいじめ」を子育ての不安や悩みの内容と答えています。外国にルーツを持つ子どもに対する差別やいじめをなくすためには、異なる外見、通じない言葉、違和感を覚える習慣・行動など自分とは異なるものへの恐れや多数派の論理を乗り越え、子ども同士がお互いを認めあえるようにすることが重要であり、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 相互の文化などを肯定的に理解できる機会をつくる
- ② 自他を尊重し人権意識を高める教育プログラムを幼少期から取り入れる
- ③ すべての子どもが、認められ褒められる機会を作る
- ④ 身近なことから双方の違和感について率直に話し合える環境をつくる



取り組み内容	②…親子で母語・母文化を体験するイベント ②…外国語で絵本の読み聞かせ(KIFA) 共通…一ツ木地区の学校施設等へのヒアリング、SSS へのヒアリング ※個別の学校、クラスでは、取り組まれていると思われるが、現状把握や施策の実施はあまり行えていない。		
達成度	○	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		②	②
総評	◆一ツ木地区の学校施設及び SSS へのヒアリングによると、学校に通う外国にルーツがある子どもはクラスの中に溶け込んでおり、「外国にルーツがある」ということが原因で差別やいじめは見られないとのことだった。外国人市民への意識調査でも、「子育てや教育で困ったこと」で、「いじめや差別を受けている」の回答割合は7%と低くなっている。 ◆外国にルーツのある子どもは、増加傾向にあり、国籍も多様化している。現状把握を行い、必要に応じて施策の実施を検討することが求められる。		
◇: 成果 ◆: 課題			

子どもを持つ外国人保護者の不安や悩みの内容には、「子どもの未就学や不登校」が8%あり、併せて統計上も外国人登録者数と学校在籍数に差があり、帰国、転居、他学校在籍の場合もありますが、未就学となっている可能性があります。また、外国人保護者の中には、日本語力不足や学校の制度・文化の理解不足のために、子どもの幼稚園・保育園や小・中学校への適応を遅らせている場合もあります。そうした状況を踏まえ、外国にルーツを持つ子どもの保護者に対して、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 未就学、不登校の子どもを把握し、就学・登校に向けて支援を行う
- ② 保護者の子どもに関する相談・支援体制を整える
- ③ 保護者に学校の制度、習慣、行事などを丁寧に伝える機会をつくる
- ④ 保護者に対する日本語学習や多様性理解をすすめる



取り組み内容	②③…外国人生活相談、外国人児童生徒語学指導員巡回指導 ②…外国につながる子どもと保護者のための進路説明会、外国人親子対象の教育相談会 ③…愛知教育大学:多言語幼稚園・保育園・小学校・中学校の各ガイドブック等の活用 ④…ママのための日本語サロン(KIFA) ④…各種日本語教室<詳細は「公共施設・機会 No.7」参照>		
達成度	○	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		②③④	②③④
総評	◇外国人児童生徒の保護者へのサポートとしては、市役所における一般的な生活相談、学校では巡回指導員によるサポートを行っている。また、各種日本語教室も KIFA などにより行われている。 ◆2022 年に行われた意識調査によると、小中学校の子どもがいる保護者の 10%が「授業に追いつけない」「いじめや差別が心配だから」を理由に、「以前は(学校に)行っていたがやめた」と回答している。 ◆在住ベトナム人の急増、国籍の多様化に伴い、現在の語学指導員では保護者への丁寧な対応ができないという課題がある。		
◇: 成果 ◆: 課題			

No.5 地域や世界の課題を主体的に考える機会をつくる

全

どの国の国民も、自国に対する誇りがあるのと同様に、どの国にも解決すべき課題があります。グローバル化が進み、一国の問題はもはや一国だけのものではなく、互いに影響を与えながら存在する現代にあって、「交流」だけではなく、「交流から共生へ」と一歩先に進む必要があります。国や他者、多文化と肯定的に出会い交流するだけではなく、地域の課題、地球の課題について知り、それらの課題と自分との関わりを理解し、協働して地域や地球の課題解決に取り組むことが重要です。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 地域や世界のニュース、課題を取り上げ考える機会を充実させる
- ② 違いを乗り越え関わる力を育むための参加型の国際理解教育を広げる



取り組み内容	①②…刈谷北高校との連携による学校ESDプロジェクト出前授業<Ⅲ> ①②…グローバル人財を生かしたワールド・スタディ講座の小・中学校・高校での実施<Ⅲ> ①②…総合的な学習実施事業を活用した国際理解教育の実践などが個別の学校、クラスでは、取り組まれていると考えられる。		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②	①②
総評	◇地域や世界の課題を主体的に考える機会として、第1期は1つの高校と連携してESD出前授業を行った。第2期から第3期にはでは市内全学校に広げるためのツールとして、刈谷市独自の「グローバル人財を生かしたESD推進メニュー（ワールド・スタディ講座）」を作成し、人財の確保や提供体制の構築を行い、希望する学校のニーズに応じて講座を提供した。 ◆新型コロナウイルスの影響から、講座の提供件数が減っていたが、今後は、より多くの学校において、地域や世界の課題を主体的に考える機会として、ESD推進メニュー（ワールド・スタディ講座）のプログラムを、学校のニーズに応じて臨機応変に提供し、広めていくことが課題である。		

地域では、小学校などの施設を活用し地域住民が子どもと遊び学ぶなど活動を行う「放課後子ども教室」、週末に子どもが安心して集える居場所を提供する「キッズクラブ」、中高生の自立を支援し地域の中で子どもを育む「中高生の居場所づくり」、スポーツを通じて地域づくり・人づくりをすすめる「総合型地域スポーツクラブ」など、地域社会で直接・間接的に子どもを支える活動が多様に行われています。こうした事業を含め、外国にルーツを持つ子どもに対しては特別に配慮を促しながら、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 放課後の子どもの居場所づくりを充実させる
- ② 子どもの意見表明や子どもの社会参画を充実させる
- ③ 子どもの安全・安心を地域で支えることを充実させる
- ④ 地域と大学や市民ボランティアとの連携による取り組みをすすめる



取り組み内容	①③④…ボランティア団体による外国人向けの取り出し授業や放課後日本語教室 ①③④…各地域における既存のサポート事業(放課後子ども教室、キッズクラブ等)		
達成度	○	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①③④	①③④
総評	◇ボランティア団体による放課後教室は、学習支援だけでなく外国にルーツを持つ子どもの居場所としても機能している。 ◆放課後日本語教室を実施するボランティア団体へのヒアリングでは、活動資金の確保、世代交代などが継続的な活動への課題となっている。 ◆外国にルーツを持つ子どもの地域活動の実態把握が十分にできておらず、地域活動への参加のためのサポートのあり方を検討する必要がある。		
◇: 成果			
◆: 課題			

③ 「公共施設・機会」

No. 1 公共サービスの外国人市民対応化をすすめる

外

外国人市民の日本語会話の能力は、「日本人と同程度」23%、「日常会話」38%、「簡単な単語なら聞き、話せる」37%、「まったく会話できない」2%となっています。国籍別ではブラジルとフィリピンの人々の日本語会話できる能力・割合が低くなっています。また、「聞く・話す」はできても「読む・書く」はできない外国人市民が多く、さらに、行政用語、医療用語など専門的な言葉の理解度は、必要であるにも関わらず低くならざるを得ません。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 市役所において主要言語による通訳の配置を充実させる
- ② ニーズに応じた看板・紙媒体・電子媒体の主要言語表記を充実させる
- ③ ピクトグラム・やさしい日本語などユニバーサルな案内表示を充実させる
- ④ 公共施設職員や市民ボランティアの外国語力の育成、活用のしくみをつくる
- ⑤ 市内の医療機関における医療通訳などの対応をすすめる



取り組み内容	①…多言語による通訳(外国人生活相談員)の配置 ①…主要課へのポケット(音声翻訳機)の導入 ②…刈谷市ホームページの外国語自動翻訳機能、市民への配布物の多言語化 ②…生活情報誌の多言語化・無料配布 ①②③…市職員向け国際化・多文化共生コミュニケーションハンドブックの作成・普及<Ⅱ> ④…KIFAVによる通訳翻訳グループ活動、KIFAによる外国語教室 ⑤…あいち医療通訳システムの周知		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②③④⑤	①②④⑤
総評	◇市役所内では、タガログ語、ポルトガル語、中国語、英語による通訳ができるよう人員を配置している。また、他の言語についても、音声翻訳機を導入し、対応に努めている。 ◇刈谷市ホームページは自動翻訳による多言語化に対応し、「ごみの出し方」など必要に応じてリーフレットやチラシを多言語化し、配付している。 ◆在住ベトナム人の急増、国籍の多様化に伴い、ベトナム語通訳配置、音声翻訳機の充実、保育園・幼稚園などにおけるコミュニケーション支援、主要手続き文書の多言語表記が検討課題となっている。 ◆現在の刈谷市ホームページの外国語自動翻訳は、十分な翻訳精度ではないケースもあり、改善が必要である。 ◆言葉の壁だけでなく、心の壁、(母国とは違う)制度の壁を乗り越えて、外国人対応を行うための工夫が求められる。 ◆外国人市民への意識調査によると、最も外国人が母国語でほしい情報は保健・医療・福祉の情報であり、そういった情勢情報の通訳・翻訳を提供することが課題となっている。		
◇: 成果 ◆: 課題			

No.2 国際化・多文化共生の拠点をつくり、最大限に活かす

全

刈谷市国際プラザに求める機能は、外国人市民が、「外国人への差別や偏見をなくすように日本人へ意識啓発をすすめる」59%、「外国人に必要な情報を多言語で発信する」55%、「日本人と外国人が知りあい交流をすすめる」53%、日本人市民が、「外国人が日本の文化や習慣について学ぶ」50%、「外国人が日本語の学習をする」44%、「日本人が外国の文化や習慣／外国語を学ぶ」43%となっています。また、外国人市民の利用意向は、「企画運営にも参画したい」も含め「積極的に利用したい」が62%と高い。こうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 刈谷市国際プラザを整備する
- ② 外国人市民のニーズに合った環境とプログラムを用意する
- ③ 日本人市民の国際化をすすめるプログラムを用意する
- ④ 外国人市民と日本人市民の出会いと情報交換の場にする
- ⑤ 市民参画によるより良い拠点づくりをすすめる



取り組み内容	①…国際プラザの整備・管理事業 ②…関連団体からの多言語案内の配架、掲示、外国書籍や新聞などの閲覧提供 ②③④⑤…グローバル・カレッジの開催Ⅱ ②③④…KIFAによる国際化・多文化共生関連講座・イベントの開催 ⑤…KIFAVへの支援 ⑤…国際プラザの部屋の貸し出し事業、サロンスペースの自由利用		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】 ①②③④⑤	取り組み内容【第3期】 ①②③④⑤
総評	◇第1期の国際プラザの整備後、KIFA、KIFAV、市が主催して、様々な講座・イベントが開催されている。また、外国人市民の自主活動グループ、外国人支援NPOなどがサロンスペースを活用して活動を行うなど、国際プラザはニーズに応じた活用がされてきているといえる。 ◆外国人市民への意識調査によると、国際プラザの認知度は37%と十分とはいえ、国際化・多文化共生の拠点として、より多くの外国人市民が知り、利用されるような取り組みを充実させることが望まれる。		
		◇: 成果	◆: 課題

No.3 外国人市民向けサービス・情報提供を充実させる

外

外国人市民にとって、暮らしに必要とされている情報は、1位が「病気事故時の連絡先や対処方法」47%、2位「外国人向け講座やイベントの情報」47%、3位「健康保険や年金の情報」40%、4位「避難所など災害対策の情報」38%から、最も低い「まちづくり参画のための情報」でも13%と一定のニーズがあり、多様な情報と関連するサービスを必要としています。一方で、外国人相談窓口、日本語教室の認知度は50%を超えているものの、国際交流フェスタ、防災教室、安全教室の認知度は15~25%と低く、必要な情報が届いていない可能性があります。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 主要言語に対応した外国人生活相談窓口を充実させる
- ② 刈谷の暮らし方セミナーなど総合的に必要な情報が得られる機会をつくる
- ③ 外国人市民に届きやすい媒体・ネットワークによる情報提供のしくみをつくる
- ④ 多文化ソーシャルワーカーなど県事業との連携を図る



取り組み内容	①…外国人相談員による相談事業 ②…外国籍住民のための健康相談会(KIFA) ②…ママのための日本語サロン(KIFA) ②…国際プラザでの関連団体からの多言語案内の集中配架、掲示 ③…多言語によるあいち生活便利帳、刈谷市暮らしのガイドブックの配布 ③…外国人互助コミュニティづくり支援とSNSグループを通じた情報提供<Ⅱ> ③…ブラジル互助コミュニティによる「家族が亡くなった時の対応」動画の発信<Ⅱ> ③…「ごみの出し方」など生活における必須情報の多言語によるリーフレット等の全戸配付 ④…県事業など広域的サービスとの連携		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②③④	①②③④
総評	◇外国人の言語、特有の背景を理解できる外国人相談員による全般的な生活相談を市で実施している。また、特に必要であったり、関心の高い「健康」「子育て」といったテーマで、外国人向けの相談会・サロンを刈谷市国際交流協会で開催してきた。 ◇市の各部署、国際交流協会等からは、必要に応じて紙媒体、Webサイトによる多言語の情報提供を行っている。 ◇第3期からは、市が支援して結成された外国人互助コミュニティのSNSや動画ツールを通じて、適宜、外国人市民にとって重要と考える情報の提供を行っている。 ◆外国人市民への意識調査によると、休日診療所や救急医療情報センターの認知度は、日本人市民61.7%に対し、外国人市民32.4%と情報格差が見られた。また、新型コロナウイルスに関して、随時、発出される重要な情報が、外国人市民には届きにくい状況も見られた。今後、永住化に伴い公平に届けるべきライフステージごとの公共サービス情報や緊急的な重要情報が外国人市民に届きやすくなるよう検討を行う必要がある。		
◇: 成果			
◆: 課題			

No. 4 防災と災害時のサポートをすすめる

外

外国人市民の東海地震・東南海地震が起きる可能性が高いという認知度は61%（フィリピン人に限ると37%）と日本人市民の89%より低くなっています。また、地震などへの備えも十分とは言えません。一方、外国人市民が必要としている情報の4位は「避難所など災害対策の情報」38%となっています。外国人市民は、言葉の壁が障害になる災害時要援護者であり、こうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 災害に関する情報を伝え、防災意識を高め、災害への備えを促す
- ② 外国人市民が参加できる防災訓練を充実させる
- ③ 災害発生時に多言語による必要な情報共有のしくみをつくる



取り組み内容	①②…KIFAによる外国人市民向け防災講座の開催 ①…災害への備えを促す多言語チラシの作成 ①…県や関連団体・NPOによる広域的サービスの周知		
達成度	○	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②	①②
総評	◇防災に関する基本的な情報は、刈谷市特有のものではなく、県や関連団体・NPOにより広域的に多言語で発信されている。一方的な情報提供だけでなく、外国人市民の防災や減災への備えや対応の理解度をコミュニケーションを取って確かめながら、伝えられる防災講座をKIFAが開催している。 ◆今後の課題としては、災害発生時に、言葉の壁により避難情報の伝達や避難所での生活の質が確保できないおそれがあるため、やさしい日本語や多言語による情報提供が必要である。		
◇: 成果 ◆: 課題			

No.5 外国人市民のまちづくりへの参画をすすめる

外日

本市は、共存・協働のまちづくり推進条例を制定し、関係主体によるまちづくりを推進しています。外国人市民もまちづくりを担う関係主体（市民）であり、参画する権利と役割があります。外国人市民の55%（中国人は79%）が社会に貢献したい気持ちがあり、望むまちの姿には「安心・安いで暮らせるまち」56%に次いで「違いを尊重・共に生きるまち」49%を挙げています。さらに、国際化・多文化共生のために、具体的にやりたいこと、貢献できそうなことが多く寄せられています。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 母国の文化紹介などまちづくりイベントを共に盛り上げる機会をつくる
- ② 外国人市民も交えたまちづくりの話しあいの場を設ける
- ③ 外国人市民のまちづくりコーディネーターを養成する
- ④ 外国人市民ボランティアを育成し、能力を活かした活躍の場をつくる



取り組み内容	①…KIFAV による国際交流フェスタ in KARIYA、KIFA・KIFAV によるワールド・キッチンなどでの外国人市民による母国の文化紹介 ①…グローバル・カレッジでの外国人市民による母国の文化紹介Ⅱ ②…国際化・多文化共生推進委員会への外国人市民の参画 ②…一ツ木町、小垣江町におけるプロジェクト会議への外国人市民の参加Ⅰ ②…外国人市民と日本人市民で多文化共生について考えるワークショップの開催 ③…外国人互助コミュニティづくりにおけるキーパーソンの発掘Ⅱ ③…「外国人市民のための困りごと相談つなぎ方ガイド」の作成、その中での「外国人つなぎ人」のしくみづくりの検討Ⅱ ①④…KIFA による外国語での絵本読み聞かせ（KIFA） ④…外国人市民が講師となって、ワールド・スタディ講座を実施Ⅲ		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②④	①②③④
総評	◇KIFA が中心となって、講座やイベントで外国人市民が母国の文化紹介をするという形で外国人市民の参画は積極的に行われた。 ◇第3期の国際化・多文化共生推進委員会には、12人中4人が外国人市民となり、各重点協働プロジェクトのミーティングへも外国人市民の参加・参画が増えてきている。 ◇第3期には重点協働プロジェクトで、外国人互助コミュニティの形成など、外国人同士が助け合う体制づくりに取り組み、外国人キーパーソンの発掘など外国人市民のまちづくりコーディネーター養成に向けた一定の成果があった。 ◆継続的に自分が住むまちをよりよくしていこうという「まちづくり」への参画という視点で見ると十分な成果とは言えず、課題は多く、「多様性を成長につなげる」という計画の目的を実現するためには、②③④についてさらに取り組んでいく必要がある。		
◇: 成果 ◆: 課題			

No.6 様々な国の人や文化と出会う場・機会をつくる



本市では、刈谷市国際交流協会を中心に、愛・地球博で一国一市町村フレンドシップ事業の相手国であったインドと出会う「ナマステ・インディア in KARIYA」、愛知教育大学の留学生など外国人と交流する「国際交流フェスタ」、外国文化に出会う「国際交流教室」、「外国語会話入門教室」などの事業を継続して行っています。一方、日本人市民のこうした講座への参加意向は「外国人交流イベントや講座」が40%（40歳未満では54%）、「近隣外国人との交流や話しあい」24%となっており、潜在的なニーズは高いと言えます。そのため次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 様々な国の文化等を知り体験できる機会を充実させる
- ② 外国人と交流する機会を充実させる
- ③ 外国語会話を学ぶ機会を充実させる



取り組み内容	①…KIFAによる国際理解講座「世界をのぞこう」、国際プラザ掲示板での世界文化紹介 ①②…KIFAによるナマステ・インディア in KARIYA、カナダ・ストリートホッケー体験交流会 ①②…国際交流フェスタ in KARIYA、文化交流グループによる異文化交流会(KIFAV) ①②…ワールド・キッチン(KIFA, KIFAV) ①②…グローバル・カレッジⅡ ③…外国語教室、外国絵本の読み聞かせ(KIFA)		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②③	①②③
総評	◇KIFA と KIFAV が中心となって、国際プラザや市内各施設において、様々な国の人や文化と出会う場・機会を作ってきている。 ◆今後とも引き続き、これらの取り組みを実施、充実させていくことが望まれる。		
◇: 成果 ◆: 課題			

日本で定住し、日本で生活していくためには、日本語を習得することが必要不可欠です。それに対応するために、刈谷市国際交流協会を中心に、日本語教室を開催しています。就労目的で来日した外国人の定住化・永住化が進み、本市の外国人市民の定住意向は63%となっています。今後とも日本語学習のニーズは続くと考えられることから、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 外国人市民のニーズに応じた日本語教室を充実させる
- ② 日本語教育を担う市民ボランティアの育成を充実させる



取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ①…KIFAV による日本語支援グループによる日本語教室 ①…愛知教育大学外国人児童支援リソースルームによる土曜日本語教室 ①…日系人就業準備研修「仕事で使える！実践日本語」 ①…KIFA による初期日本語教室「はなそうにほんご」 ①…刈谷市日本語支援団体連絡協議会の定期開催 ②…KIFA による日本語ボランティア入門講座 ②…KIFA による初期日本語教室パートナー研修 ②…KIFAV 日本語支援グループによる自主勉強会 		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②	①②
総評	<p>◇:成果 ◆:課題</p> <p>◇KIFAV、愛知教育大学外国人児童支援リソースルーム、一般財団法人日本国際協力センターなどそれぞれの役割に応じて、必要とされる日本語教室、研修を行っている。</p> <p>◇第3期には、日本語がほとんどできない外国人向けに、日本での生活の役に立つような対話型の初期日本語教室「はなそう にほんご」を刈谷市 KIFA が実施している。</p> <p>◆在留資格「特定技能」の創設など、多くの外国人人材を受け入れる方向での入国制度の改定などにより、今後、外国人市民の定住化がさらに進み、「生活者としての外国人」がさらに増えることが予想される。こうした背景から、令和元(2019)年に、日本語教育の推進に関する法律が施行され、日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するために、地方公共団体は「地域の状況に応じた日本語教育推進施策を策定・実施する」責務があるとされたことから、日本語教室の充実を図る必要性がある。</p>		

※子ども向け日本語学習については、「教育の場」取り組み施策 No.2「子どもの学校生活をサポートする」参照

外国人市民の中には、国際化・多文化共生のために、具体的にやりたいこと、貢献できそうなこととして、「日本語が分からない同国人の力になりたい」「来日した同郷人の相談窓口になる（日本語、各種手続きの方法、日本の習慣など）」を挙げている人がいました。異国の地における同郷人とのネットワークは、安心して暮らすために重要な役割を担うことができます。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 外国人市民の有志と困っている外国人市民とをつなげるしくみをつくる
- ② 外国人市民同士の互助体制づくりを支援する



<p>取り組み内容</p>	<p>①…外国人互助コミュニティによる外国人市民のための生活ガイドブックの作成Ⅱ ①…「外国人市民のための困りごと相談つなぎ方ガイド」の作成、その中での「外国人つなぎ人」のしくみづくりの検討Ⅱ ②…外国人互助コミュニティ形成支援Ⅱ （フィリピン人 SBK、ベトナム人 VNK、ブラジル人 OasisBrasil の結成と支援）</p>		
<p>達成度</p>	<p>◎</p>	<p>取り組み内容【第1期・第2期】 なし</p>	<p>取り組み内容【第3期】 ①②</p>
<p>総評</p> <p>◇: 成果 ◆: 課題</p>	<p>◇第3期の重点協働プロジェクトの「外国人市民の参画と共助プロジェクト」において、外国人市民による外国人市民のための生活ガイドブックの作成を契機として、各国籍のキーマンと出会い、外国人市民の多文化共生まちづくり事業への参画、その後のネットワークの形成に資するような取り組みを、市内で人口が多い3か国（フィリピン、ベトナム、ブラジル）を対象に実施した。</p> <p>◇その結果、以下のとおりガイドブック等を作成するとともに、外国人互助コミュニティとして活動ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン…団体紹介・生活ガイドリーフレット作成、フィリピン人コミュニティ結成・自主活動継続 ・ベトナム…団体紹介・生活ガイドリーフレット作成、ベトナム人コミュニティ結成・自主活動の後、新型コロナウイルスの影響により活動停滞 ・ブラジル…生活ガイド動画「家族が亡くなった！編」作成、ブラジル人コミュニティ結成 <p>◇「外国人市民のための困りごと相談つなぎ方ガイド」の作成と「外国人つなぎ人」による支援体制の構築について、検討した。</p> <p>◆国籍ごとに、互助コミュニティに対する必要度や考え方が異なり、新型コロナウイルス感染拡大も影響して、自主活動が停滞傾向のコミュニティもあるため、ニーズに応じた支援対応が必要である。</p>		

No.9 日本や刈谷市の文化等を知る機会をつくる

外

本市では、刈谷市国際交流協会を中心に、お花見会、ボランティアによる日本文化紹介やホームステイの受け入れを行っています。今後とも、日本の文化や習慣を学ぶ機会を求める外国人市民は45%と一定のニーズがあるため、次のような取り組みをすすめます。

取
り
組
み
内
容

- ① 外国人市民が日本の文化や刈谷市について知る機会を充実させる
- ② 刈谷市の郷土資料を充実させ、多言語で紹介する



取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ①…KIFAV 文化交流グループによる外国人への日本文化の紹介 ①…KIFAV 日本語教室における外国人市民への日本の文化・刈谷の歴史紹介 ①…グローバル・カレッジの実施Ⅱ ②…「カキツバタパンフレット」の多言語化・無料配布 		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②	①
総 評	<p>◇KIFAV が中心となって、国際プラザ等において、日本や刈谷市の文化等を知る機会を作 ってきている。</p> <p>◆今後とも引き続き、これらの取り組みを実施、充実させていくことが望まれる。</p>		
◇: 成果 ◆: 課題			

No.10 外国人市民への偏見・差別をなくす

目

外国人市民が感じる日本人の残念なところで最も多い意見は「外国人に対する偏見や差別」でした。刈谷市国際プラザの必要な機能も「外国人への差別や偏見をなくすように日本人へ意識啓発をすすめる」59%と最も高くなっています。一部の外国人による犯罪や騒動をもとに偏見を持ち、例えば外国人お断り賃貸住宅など具体的な行動となって差別を生んでいます。そうした偏見・差別をなくし、外国人の人権を守る刈谷市をつくるために、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 外国人市民との心暖まる話などプラスの情報を積極的に発信する
- ② 外国人市民の置かれている人権状況を把握し、市民と共有する
- ③ 外国人の住宅入居に対するサポートを行う



取り組み内容	①…日本人への市民意識調査による心温まるエピソードの収集とその発信 ②…外国人市民・日本人市民・市職員への意識調査による偏見・差別の状況の把握 ③…外国人相談員による相談事業		
達成度	○	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①③	①②③
総評	◇外国人市民に対する差別事象の対応については、外国人相談員による相談事業により相談を受けている。 ◇偏見をなくす取り組みとしては、外国人市民のプラスの情報を一部で発信している。 ◇人権に関する状況の把握としては、外国人市民への意識調査によると、日本人とのコミュニケーションで「外国人に対する偏見」を感じた割合は 25.8%、「就労や言動などの差別的扱い」を受けた割合は 18.4%と、4人に1人は日本人とのコミュニケーションの中で偏見・差別を感じている。 ◇外国人コミュニティへのヒアリングでは、住宅入居において、差別的な扱いを受けることがあるのが実態ということである。 ◆2022年に「愛知県人権尊重の社会づくり条例」が施行され、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動」が条文として取り上げられ、「その解消の必要性についての県民及び事業者の理解を深めるために必要な取組を推進する」としている。 ◆以上のことから、国際化・多文化共生の目的の一つである「すべての人の人権をまもる」を実現するためにも、積極的に対策を講じる必要がある。		
◇:成果 ◆:課題			

No. 11 外国人も住みやすいまちをつくり、アピールする

外

外国人のニーズを把握し住みやすいまちをつくることは、誰もが住みやすいまちづくりにつながります。また、多様な外国人が共に暮らし、多様な視点から共にまちづくりをすすめることは、地域の活性化につながります。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 外国人も住みたくなるユニバーサルなまちづくりをすすめる
- ② 刈谷の魅力外国人にアピールする機会をつくる



取り組み内容	①…外国人コミュニティの形成<Ⅱ> ①…市職員向け国際化・多文化共生コミュニケーションハンドブックの作成・普及<Ⅱ> ②…一ツ木町ワールドデンにおけるテレビ等のメディア取材の受入<Ⅰ> ②…広報誌による外国人と日本人の交流事業の広報		
達成度	○	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②	①②
総評	◇これまで各公共サービスで個別に外国人に限らず誰もが住みたくなるユニバーサルなまちづくりを行ってきた。 ◇本計画で行ってきた重点協働プロジェクトは、「私と世界がつながるまち刈谷」を都市像として、外国人を「支援」という視点以上に、外国人と「共生」という視点で、「多様性を成長につなげる」「共存・協働のまちをつくる」という目的実現のため、外国人にとっても魅力ある活動を行い、外国人と日本人が交流してきた。その様子を広報誌により地域の住民に周知した。また、全国的な先進事例として、ワールドデンが注目され、多くの視察やテレビ取材を受け入れることにつながった。 ◆今後は、外国人市民の定住化がさらに進み、より多くの外国人が日本に来ることになると見込まれるため、外国人を含む誰もが住みやすいまちにすることを引き続き、追求していく必要がある。		
◇: 成果 ◆: 課題			

④「企業・職場」

No.1 企業の国際化・多文化共生への社会貢献をすすめる

全他

本市の特徴は、企業城下町であり、「グローバルなものづくりのまち刈谷」です。そのため本市の多くの企業にとって、国際化や多文化共生は、企業活動に密接に関係しています。一方、本市では、自動車関連企業による「環境」や「福祉」をテーマとした社会貢献活動が進んでいます。これらの2つの条件を考え合わせ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 地域のニーズに応じた企業の国際化・多文化共生事業をすすめる
- ② 企業が連携した社会貢献活動をすすめる
- ③ 企業の海外拠点、海外経験を活かした貢献をすすめる
- ④ 企業の社会貢献活動に対する表彰や市民に対する情報提供を行う



取り組み内容	①…企業による日本語教室生徒の工場見学受入 ②…企業内学園による姉妹都市での活動支援 ②…企業内学園によるワールデンへの参加 ③…グローバル人財をいかしたESD推進メニュー試行の際に、海外赴任経験のある企業社員の協力<Ⅲ>		
達成度	○	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②③	①②
総評	◆企業の国際化・多文化共生への社会貢献は、個別の企業では、取り組まれていると考えられるが、現状の把握は一部に留まり、市としての取組はあまり行えていない。 ◆グローバル人財をいかした ESD 推進メニュー試行時に、海外赴任経験のある企業社員をグローバル人財として協力してもらったが、その後は適任を確保しづらく、その後の派遣につながっていない。		
◇: 成果 ◆: 課題			

No.2 外国人社員に対するサポートを充実させる

外

多くの外国人社員にとって、企業・職場が日本での生活の起点となっており、個人的に情報やネットワークがない場合は、日本での生活について相談できる重要な場となっています。また、仕事をすすめるうえで知識や言葉を学ぶのも企業・職場です。大企業では比較的そのサポートが充実していますが、中小企業ではこれからの所が多くあります。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 日本語学習やコミュニケーション支援を行う企業を増やす
- ② 外国人市民向けの研修などスキルアップの機会を持つ企業を増やす
- ③ 刈谷市で暮らすための生活サポートを行う企業を増やす
- ④ 大企業の取り組みを中小企業にも波及させる
- ⑤ 良い事例を集めて、他の企業に応用できるようにする



取り組み内容	①…企業内学園によるワールデンへの参加 ③…外国人を雇用する各企業、外国人派遣企業や監理団体における生活サポート ④⑤…外国人雇用適正化セミナー ※その他、個別の企業では、取り組まれていると思われるが、現状把握や市としての取組は行っていない。		
達成度	—	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		③④⑤	①③
総評	◇企業内学園に所属する外国人従業員が、ワールデンへ参加し、そこで地域の日本人と日本語でコミュニケーションを取る機会を作ることができた。 ◆外国人を雇用する中小企業に対するヒアリングから、外国人社員に対するサポートは、個別の企業では、取り組まれている事例を確認したが、現状把握は一部に留まり、市としての取組は、行っていない。		
◇: 成果 ◆: 課題			

No.3 働く人が地域や世界につながる機会をつくる

全

本市には、日系ブラジル人や日系フィリピン人など日系の外国人、海外展開している企業の人事交流により来日した外国人、研修制度を利用したアジア系の外国人など、様々な国・立場の外国人が就労しています。また、企業の海外拠点での生活経験がある日本人社員やその家族も多くいます。このように、本市は企業の人的資源で世界とつながる潜在的な可能性が高いまちとなっています。例えば、本市の外国人研修生を受け入れている研修機関や企業では、研修寮がある地域の清掃を行う活動を行っており、外国人が地域につながり、地域が世界とつながっています。こうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 外国人社員が地域と交流し、貢献する企業を増やす
- ② 海外駐在経験のある日本人社員が貢献するしくみと機会をつくる
- ③ 社員の地域ボランティアをすすめる企業を増やす
- ④ 職場で、多文化を体験、理解する機会をつくる



取り組み内容	①…外国人社員による地域清掃参加 ①…一ツ木地区中小企業によるワールデン等の外国人向けイベントへの協力 ②…KIFAV への登録、外国人向け日本語教室のボランティアへの参加 ②…グローバル人財をいかしたESD推進メニュー(ワールド・スタディ講座)での活用<Ⅲ> ③…トヨタグループ各社の従業員ボランティア活動促進		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】 ①②③	取り組み内容【第3期】 ②③
総評 ◇: 成果 ◆: 課題	◇企業に雇用される外国人市民の中には、日本での暮らしの中で、日本の文化にふれたり、日本人と交流したいという意向があり、ワールデンの活動にはそうした外国人市民が参加してきた。 ◇企業で働く社員や定年退職者が、KIFA 親善ボランティアや日本語教室のボランティアとして参加している。 ◆市民による共助のまちづくりをより推進していくために、企業に所属する外国人市民や日本人市民とボランティア団体の活動をマッチングさせる機会を作ることが課題である。 ◆グローバル人財をいかした ESD 推進メニューでの海外赴任経験のある企業社員の活用は、適任を確保できていない。		

No. 4 外国人市民の安定した就業をサポートする

外

平成 20 年（2008 年）のいわゆるリーマンショック以降、外国人の雇用環境の悪化が進み、帰国を余儀なくされた外国人が多くいます。現在本市にいる外国人市民が不幸せの要素としては「就業状況（仕事の有無・安定）」が 41%と最も高く、暮らしに必要な情報の 6 位は「仕事に就くための情報」37%（フィリピン人に限ると 53%＝2 位）となっています。就業していても非正規雇用の場合が多く、日本で幸せな生活のためには、安定した就業が不可欠です。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 外国人市民の能力を活かした就業支援を充実させる
- ② 正規雇用化など安定した就業に向けて企業や国に働きかける



取り組み内容	①…JICE: 日系人就労準備研修「仕事で使える！実践日本語」 ①…JICE: 大原学園: 就労準備研修 ①…ハローワーク刈谷外国人職業相談センター ①…外国人相談員による相談事業 ①②…外国人雇用適正化セミナー		
達成度	○	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②	①
総評	◇外国人市民の就業については、国・県による施策が中心となるため、本市独自の取組はなく、相談などがあった場合に上記の取り組み内容などを紹介することが中心となっている。		
◇: 成果 ◆: 課題			

人種、性別、年齢、個性などあらゆる多様性を積極的に受け容れることで成長につなげようという考え方である「ダイバシティ」は、適材適所によってそれぞれの能力が最大限に発揮されれば、多様な視点で問題解決に臨めたり、既存の慣習や概念にとらわれない斬新なアイデアを創出できたりと、多くの効果が期待されています。その必要条件として、社員が先入観や偏見を持たず多様性を受け容れることが求められます。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 属性によらない適材適所で公正な人事をすすめる企業を増やす
- ② 社員に対する人権教育をすすめる企業を増やす
- ③ 多様性を取り入れた企業の成功例を紹介する



取り組み内容	①②…外国人雇用適正化セミナー ※その他、個別の企業では、取り組まれていると思われるが、現状把握や市としての取組は行っていない。		
達成度	—	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②	①②
総評	◆外国人市民に関わる職場づくりについては、各企業内で取り組まれていると考えられるが、現状把握や市としての取組は、あまり行うことができなかった。 ◆国際化・多文化共生の目的である「多様性を成長にいかす」、「すべての人の人権をまもる」の実現のためには、企業の役割は重要であり、今後、情報交換や連携が求められる。		
◇: 成果 ◆: 課題			

⑤ 「地球規模」

No. 1 世界の状況や課題について知る機会をつくる

全

世界のグローバル化によって、先進国の私たちは、食料・資源・情報・経済など様々な分野で恩恵を受けています。しかし、経済至上主義、自由競争の激化によって、世界の格差はますます開き、地球規模の環境問題が深刻さを増し、このままでは地球の持続可能性が危ぶまれます。もはや一国だけでは成り立たない世界規模で相互につながりある世界にあって、持続可能な世界を目指すためには、貧困や環境問題への早急な対応が求められます。そのためにまずは、世界は今日のような状況にあるのかを知ることが重要であることから、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 生涯学習を担う関係主体から世界の状況や課題について情報発信する
- ② 様々な場や機会に、世界の課題についてまなび考える機会をつくる
- ③ 海外に長期滞在した経験のある市民の知識・情報を活かす



取り組み内容	①②…グローバル・カレッジⅡ ①②③…KIFAによる国際理解講座「世界をのぞこう」の実施 ①…姉妹都市カナダ・ミササガ市訪問体験談 ②…WAFCAによる「学べる！遊べる！かりやWAFCAマルシェ」の開催 ③…グローバル人材をいかしたESD推進メニューでの活用Ⅲ		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②③	①②
総評	◇刈谷市国際交流協会による国際理解講座「世界をのぞこう」は、在住の外国人や JICA 海外協力隊等の市民を講師に、様々な国の状況や課題について学ぶ機会として、継続して実施されている。 ◇第1期・第2期に重点協働プロジェクトとして実施したグローバル・カレッジでは、「多様な世界に肯定的に出会う」という学びとともに、意識して「人類共通の課題について考え、できることを進める」という学びを取り入れ実施した。 ◆国際化・多文化共生の4つの目的の1つである「地球規模の共生をすすめる」の実現のためには、地球規模で考え、地域で行動する「地球市民」の育成が大切であり、引き続き世界の課題や世界と日本のつながりについての学びがある講座の実施が求められる。		
◇: 成果 ◆: 課題			

No.2 人どうしの国際交流をすすめる

全

本市は、カナダのミササガ市との姉妹都市提携をベースに、ミササガ市民団受入（ホームステイ）、交換学生派遣（カナダ・トロント市の日本語学校の生徒宅でのホームステイ）、市民海外派遣（ミササガ市でのホームステイ）など人どうしの国際交流を行ってきました。刈谷市国際交流協会でも、愛知教育大学の留学生など外国人と交流する「国際交流フェスタ」、ボランティアによるホームステイの受入も行われています。また、インターネットの発達により、SNS[※]やテレビ電話による外国との交流も手軽にできるようになっています。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① ホームステイ・ビジットなど留学生や研修生との交流を充実させる
- ② 海外への留学やホームステイの機会や情報を充実させる
- ③ インターネットやテレビ電話などICT[※]を活用した海外との交流をすすめる

※ SNS：Social Networking Service の略。人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の Web サイト。

※ ICT：Information and Communication Technology の略。情報・通信に関連する技術一般の総称。



取り組み内容	①…ミサカガ市民団受入、カナダ・ストリートホッケー団受入(KIFA) ①…KIFAV による国際交流フェスタ in KARIYA ①…トヨタ系企業内学園による姉妹都市における活動支援 ②…KIFA によるミササガ市民派遣事業、ミササガ市訪問支援 ③…刈谷北高校：姉妹校とのウェブカメラ、SNS を通した国際交流 ③…WAFCA によるオンラインイベント「WAFCA はじめて講座」		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】 ①②③	取り組み内容【第3期】 ①②③
総評	◇人どうしの国際交流は、KIFA や KIFAV が中心となって KIFA 設立当初から進めてきた取り組みであり、現在も継続して行われている。 ◇学校現場での姉妹校との交流や、国際協力 NPO の海外との中継等では、ICT を活用して交流が行われている。 ◆今後とも、市民レベルで顔の見える関係をつくること、世界の平和にもつながることあり、可能な限り人どうしの国際交流を進めていく必要がある。		
◇：成果 ◆：課題			

この地球上では、現在約 70 億の人間が同じ時を共に生き、約 3,000 万種の動植物からなる絶妙なバランスの上に成り立つ地球の生態系の中で生かされています。しかし、世界は、「環境」と「貧困」という 2 つの大きな問題を抱え、グローバル化により国を越えて影響を及ぼしあっています。私たちは「宇宙船地球号」に乗り合わせる「運命共同体」であり、国境にとらわれず課題を解決し、よりよい未来をめざす「地球市民」という意識を持つことが重要です。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 「地球市民」の意味、世界と自分とのつながりを知る機会をつくる
- ② ESD^{*}を学校教育や生涯学習の場での実践する機会を充実させる

※ ESD：平成 14 年（2002 年）のヨハネスブルグサミットで、日本が提案した持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）の略称で、「一人ひとりが、世界の人人や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育」ことです。文部科学省においては「持続発展教育」と称されています。



取り組み内容	①②…グローバル・カレッジⅡ ①②…刈谷北高校への学校ESDプロジェクト出前授業Ⅲ ①②…グローバル人材をいかしたESD推進メニュー（ワールド・スタディ講座）の作成と各学校での実施Ⅲ		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】 ①②	取り組み内容【第3期】 ①②
総評 ◇：成果 ◆：課題	◇「ESD」を念頭に、学校への出前講座により、「地球市民」を育むための取り組みを行ってきた。 ◇また、「ESD 関連」の重点協働プロジェクトを通して、ESD推進のためのプログラムをメニュー化して、学校教育の場で実践する機会を充実させる取り組みを進めてきた。 ◆学校では教育の一環として、様々な教科・機会で、「地球市民意識」を育む教育活動が行われ、それを支援するために「ワールド・スタディ講座」として出前講座を行う仕組みを作ったが、新型コロナウイルスの影響あり、講座の提供件数が少なかった。教育の場や一般市民に向けて、生涯学習として「地球市民意識」を育む学習活動を、いかに充実させていくかが課題である。		

No.4 市民が身近にできる国際協力を広める

全

地球規模での共生は、私たち一人ひとりが、身近なところで始めることができます。例えば、募金や寄附を通じた国際協力活動への支援やフェアトレード^{*}などの消費活動を通じた国際協力など、身近にできる国際協力の方法は多様にあり、そうした活動を刈谷市で広めることが大切です。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 募金や寄附など市民が身近にできる国際協力の方法を知らせる
- ② エシカルコンシューマー^{*}について知り、広める機会や場をつくる
- ③ 国際協力の必要性と国際協力活動の情報を提供する

^{*}エシカルコンシューマー…地球環境や人々の暮らしにやさしい製品やサービスを買うこと



取り組み内容	①…一ツ木町でのフィリピンイベントでのバザー・募金 ①②③…グローバル・カレッジでの企画・実施<Ⅱ> ①②③…グローバル人財をいかしたESD推進メニュー(ワールド・スタディ講座)の作成と各学校での提供<Ⅲ> ①②③…KIFAによる国際協力に関する上映会 (「バレンタイン一揆」「マジでガチなボランティア」) ①③…KIFAによる国際プラザにおける外国紙幣募金、書損じハガキ等による寄付活動 ①③…刈谷市民ボランティア活動センターによる身近な国際協力 ①③…国際プラザにおける国際協力機構(JICA中部)の情報提供・連携 ②…KIFAなどによるフェアトレード商品の販売		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①②③	①②③
総評	◇刈谷市では、第1期から継続的に、KIFAや市民ボランティア活動センターが拠点となり、国際協力に向けた募金活動、啓発活動が行われている。 ◇重点協働プロジェクトでも、「市民が身近にできる国際協力」の視点を取り入れた企画が行われてきた。 ◆市民が身近にできる国際協力は、例えばフェアトレード商品の普及など、その裾野が広がってきており、国際化・多文化共生の4つの目的の1つである「地球規模の共生をすすめる」の実現のために、今後とも様々な場や機会を提供していくことが望まれる。		
◇:成果 ◆:課題			

本市は、昭和56年（1981年）7月、カナダのミササガ市と姉妹都市提携し、それ以降、ミササガ市民団受入事業（表敬訪問、市内施設見学、県外見学、ボランティアによる日本文化体験交流会）、交換学生派遣事業（表敬訪問、市内見学等）、市民派遣事業（表敬訪問、日本文化紹介等）を継続し友好関係を築いてきました。一方で、都市間交流のあり方として、二都市間交流から、テーマに沿った緩やかな複数都市間ネットワークづくりをめざすフレンドリーシティ交流の潮流があります。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① より良い姉妹都市提携[※]について考え、充実させる
- ② テーマ性をもった複数都市間ネットワークをつくる（入る）
- ③ 国際的なイベントを通じた交流と刈谷の魅力の発信を行う

※ 刈谷の高校生が考えた「良い姉妹都市提携」：「市民が参加しやすい企画」「お互いに利益がある」「幅広い年齢層が参加する」「広く広報される」「市民一人ひとりが姉妹都市意識をもてる」「文化の融合、新しい文化の創造」「子どもの視点を大切に」「環境などのグローバル 이슈に取り組む」「スポーツ、音楽、芸術など言葉の壁のない交流をする」「技術や情報などお互いの良いところを共有できる」「日常の暮らしに焦点をあてる」「学んだことを次に生かしていく」。



取り組み内容	①…ミササガ市との姉妹都市提携に伴う交流 ①…愛知万博フレンドシップ国との交流 ①…カナダ児童絵画コンテストと表彰式 ①…姉妹校提携に伴う交流 ③…学校 ESD プロジェクトの ESD 世界会議プレイベントにおける事例発表<Ⅲ> ③…ミササガ派遣市民団のジャパンフェスティバルへの参加		
達成度	○	取り組み内容【第1期・第2期】	取り組み内容【第3期】
		①③	①
総評	◇世界との都市間交流は、姉妹都市交流や愛知万博フレンドシップ国との交流が第1期以前から進めてきた取り組みとなっており、活発な交流活動が行われてきた。学校現場では、姉妹校提携などによる交流も行われている。 ◇都市間交流は、人どうしの交流の一つの基盤となるため、今後とも可能な限り学び、高め合う交流のあり方を考えつつ、進めていく必要がある。		
◇: 成果 ◆: 課題			

No.6 市や企業による国際協力をすすめる

他

本市には、国際協力をすすめるNGO/NPO※があり、企業が海外拠点および人的・経済的資源を活かし、その設立と運営を支援しています。地方自治体レベルでも、例えば、消防署が途上国に対し救急活動研修を行うなど、持っている資源を活かした国際協力が行われています。また、地球温暖化対策など地球規模の課題については、刈谷市における活動をすすめることで、貢献できることが多くあります。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 市や企業の人的・技術的・経済的資源を活かした国際協力を行う
- ② 海外拠点および各種資源を活かした国際協力をすすめる企業を増やす
- ③ 地球規模の課題に対応する刈谷市における持続可能な発展について模索する

※ NGO/NPO：NGOは Non-Governmental Organization の略。もともとは国連で使われ始めた用語で、政府の代表ではない民間団体を意味している。NPOは Non-Profit Organization の略。広義では非営利団体のこと。狭義では、非営利での社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体のこと。



取り組み内容	①…市役所食堂におけるテーブル・フォー・ツー(TFT) ①②…WAFCA による海外拠点や人的・経済的資源を活かした国際協力 ③…サステナビリティ・アクションプロジェクト(社会人向け、学生向け)の実施 ③…刈谷市環境都市アクションプランの実施		
達成度	◎	取り組み内容【第1期・第2期】 ①②③	取り組み内容【第3期】 ①②③
総評	◇本市が主体的に行っている国際協力としては、開発途上国の貧困解決に資するテーブル・フォー・ツーを市役所食堂で行っている。 ◇企業による国際協力の形として、開発途上国の障害者支援を行う WAFCA への支援が行われている。 ◇持続可能な開発目標 SDGs の実現に向け、市、企業、教育機関など関係セクターで様々なアクションが行われている。刈谷市では、サステナビリティ・アクションプロジェクトとして、SDGs の取り組みの普及に努めている。 ◆今後とも、国際化・多文化共生の4つの目的の1つである「地球規模の共生をすすめる」の実現のために、市としてできる国際協力について、SDGs の実現とともに、実行していくことが求められる。		
◇: 成果 ◆: 課題			

① 現計画の評価のまとめ～5つの場面・取り組み施策～

5つの場面ごとの将来こうしたい！風景の総評、取り組み施策の達成度をまとめた。

<地域>

モデル地域の一ツ木町では、10年間、畑を通して交流をめざすワールデンでの活動などが行われてきたことで、そこで知り合った外国人と日本人が気軽にあいさつし合えるような関係を築くことに成功し、全国的にも注目されている。また、小垣江町でも同様の取組が始まっており、モデル地域から他地域への広がりが始まっている。しかし、それらの活動に参加している地域住民は限定されており、まだ地域全体の取組には至っていない。

一方、達成度が比較的低い「地域に相談できる人をつくる」の取り組み施策について、ワールデンのような交流活動で相談までできる関係になるのは難しいという声があり、地域の外国人相談員の確保や人材育成など特別なアプローチが求められます。

<教育の場>

義務教育については、国籍に関わらず希望すれば誰でも入学できる状況となっているが、中学校での日本語による学習や卒業後の進路選択に対する支援が課題となっている。外国人の子どもがいることが当たり前の環境においては、子ども同士は、偏見・差別なく共生していることが多いが、保護者の中には自らの経験により相互理解に不安を抱いている人もいる。

一方、刈谷市はグローバル人材※が豊富である特性を活かして、様々な国との文化交流ができたり、世界の課題を考えるきっかけとなる講座の実施体制を整え、市内各学校のニーズに応じて、提供することができた。新型コロナウイルス感染拡大の影響下により、提供数が減少したが、今後は改めて提供を増やしていくことが課題である。

[取り組み施策]

[達成度]

1	地域に交流する場・機会をつくる	外日	○
2	地域の情報を共有する	外日	◎
3	地域の活動を共にすすめる	外日	◎
4	互いの文化に出会いまなぶ機会をつくる	日外	◎
5	地域に相談できる人をつくる	外	○
6	あいさつしあえるようにする	日外	○

[取り組み施策]

[達成度]

1	様々な国の人や文化にふれる機会をつくる	全	○
2	子どもの学校生活をサポートする	外	◎
3	子ども同士が、認めあえるようにする	外日	○
4	子どもの保護者をサポートする	外	○
5	地域や世界の課題を主体的に考える機会をつくる	全	◎
6	地域社会で子どもをサポートする	外日	○

<公共施設・機会>

主要国籍の通訳を配置するなど外国人市民がスムーズに公共サービスを受けられる環境を整えているが、近年はベトナム人の急増などにより言語や文化の多様性が進み、コミュニケーション支援が課題になっている。特に、幼稚園・保育園や学校などでの保護者とのやり取りや、災害などによる緊急時の通訳・翻訳に課題があり、正確な情報発信のための対応策が求められる。

一方、地域の国際化に対応するため、計画の重点協働プロジェクトや市主催の会議で、外国人市民の参加・参画が積極的に行われている。特に、取り組み施策のうち「外国人市民の互助体制をつくる」を計画の第3期から取り組み、フィリピン人、ベトナム人、ブラジル人のコミュニティを形成することができた。

また、国際プラザの整備後、KIFA や KIFAV により、文化交流のための講座やイベントが継続的に行われている。しかし、市民意識調査によると、外国人と日本人はお互いに交流することに不安な気持ちを感じている人が一定数いる。一方で「交流したい」という気持ちを持っている人も多いため、それを行動に移しやすいように、幅広く参加しやすい交流のための講座やイベントを展開していく必要がある。

<企業・職場>

ダイバーシティやコンプライアンスが企業にとっても重要なキーワードとなっており、多くの企業は国籍に関わらず、教育や昇格の機会が平等で、適材適所が進んでいると考えられる。また、外国人社員に対する生活サポートを実施する企業も少なくない。

しかし、外国人市民へのヒアリングでは、勤務する企業との間のトラブルが報告され、生活サポートをしていない企業も多くあると考えられることが課題である。

また、企業が行っている社会貢献は環境や福祉をテーマにしたものが多く、国際協力や多文化共生をテーマとした企業の取り組みの促進が課題である。

[取り組み施策]

[達成度]

1	公共サービスの外国人市民対応化をすすめる	外	◎
2	国際化・多文化共生の拠点を つくり、最大限に活かす	全	◎
3	外国人向け情報・サービスを 充実させる	外	◎
4	防災と災害時のサポートを すすめる	外	○
5	外国人市民のまちづくりへの 参画をすすめる	外 日	◎
6	様々な国の人や文化と出会 える場・機会をつくる	日	◎
7	日本語学習をすすめる	外	◎
8	外国人市民の互助体制をつ くる	外	◎
9	日本や刈谷市の文化等を知る 機会をつくる	外	◎
10	外国人市民への偏見・差別を なくす	日	○
11	外国人も住みやすいまちを つくり、アピールする	外	○

[取り組み施策]

[達成度]

1	企業の国際化・多文化共生の 社会的貢献をすすめる	全 他	○
2	外国人社員に対するサポート を充実させる	外	—
3	働く人が地域や世界につな がる機会をつくる	全	◎
4	外国人市民の安定した就業を サポートする	外	○
5	多様性を活かした人権尊重の 職場づくりをすすめる	外 日	—

<地球規模>

SDGs（持続可能な開発目標）キャンペーンをメディアなどで見る機会や、実際に地域で外国人を見かける機会が増え、若い世代においては外国人が近くにいることが当たり前となってきている。こうしたことを背景に、日本人市民への意識調査では、「刈谷市に住む外国人と日本人は、異なる文化や習慣を互いに認め合いながら暮らしていると思いますか」への肯定的な回答割合は約62%と計画目標の45%を大きく上回っている。一方で、習慣の違いや言葉の壁が原因となり、偏見や不安感を感じる人もいる。

このような課題を解決するためには、「知る」「考える」「行動する（交流・協力する）」という機会を通して、相互理解や協力の関係を作っていくことが大切であり、引き続き、多様な機関・団体と連携してグローバルな視点を持って取り組みを実施していく必要がある。また、経済界や国の方針により地域に在住する外国人は増加することが見込まれるため、地域における国際化や多文化共生は、本市としても今後ますます重要な課題となると考えられる。

[取り組み施策]

[達成度]

1	世界の状況や課題について知る機会をつくる	全	◎
2	人どうしの国際交流をすすめる	全	◎
3	地球市民意識を育てる機会をつくる	全	◎
4	市民が身近にできる国際協力を広める	全	◎
5	学び高めあう都市間交流をすすめる	他	○
6	市や企業による国際協力をすすめる	他	◎

② 現計画の評価のまとめ～重点協働プロジェクト～

※各重点協働プロジェクトの区分については、【1】計画の総評の方法（2）第3期重点協働プロジェクトを参照】

「地域共生関連プロジェクト」は、外国人市民が多い地域をモデル地域として、地域住民主体の多文化共生のまちづくりを支援するプロジェクトとして実施した。本プロジェクトは、「5つの場面」のうち「地域」における取り組み施策の実施につながり、「地域」における中核的事業として展開した。その結果、本プロジェクトの中心といえる「ワールドデン」は、全国的な先進的事例として紹介されるまでの活動に発展させることができた。

「外国人支援・参画・共助関連プロジェクト」は、①外国人市民と日本人市民との交流、②市役所における外国人市民対応の充実、③外国人互助コミュニティ形成の支援といった事業を実施した。本プロジェクトは、「5つの場面」のうち「公共施設・機会」、「地球規模」における取り組み施策として、以下のとおり実施することができた。

「公共施設・機会」…公共サービスの外国人市民対応化をすすめる
 国際化・多文化共生の拠点をつくり、最大限に生かす
 外国人市民のまちづくりへの参画をすすめる
 外国人市民の互助体制をつくる

「地球規模」…世界の状況や課題について知る機会をつくる

「ESD 関連プロジェクト」は、国際化・多文化共生のまちづくりを担うことができる人材（地球市民）育成の一環として、グローバル人材※をいかして持続可能な開発のための教育（ESD）を、主に教育の場で実践・普及するための取組を行なった。本プロジェクトは、「5つの場面」のうち「教育の場」「企業・職場」「地球規模」における取り組み施策として、「Think Globally、Act Locally（地球的な視野で考え、地域で行動しよう）」の考え方につながる学習や交流の機会をつくることに貢献し、以下のとおり実施することができた。

「教育の場」…様々な国の人や文化にふれる機会をつくる
 地域や世界の課題を主体的に考える機会をつくる

「企業・職場」…企業の国際化・多文化共生への社会貢献をすすめる
 働く人が地域や世界につながる機会をつくる

「地球規模」…地球市民意識を育てる機会をつくる
 市民が身近にできる国際協力を広める

以上のとおり、PDCAの視点で推進状況や課題等を整理して評価を行いながら、重点協働プロジェクトを実施してきたことは、本計画に掲げた取り組み施策を大きく進めることに寄与し、目標である5つの場面の「将来こうしたい！まち風景」を創出することにつながったといえる。

③ 次期計画に向けた課題

計画の総評を踏まえて、次期計画に向けた課題を抽出した。

■ 課題1：外国人の多様化に伴う「誰一人取り残さない」コミュニケーション支援

計画策定時の本市の外国人市民は、フィリピン、中国、ブラジルの3カ国が多くを占めていたが、近年はベトナムが急増しています。これをはじめとして、外国人市民の人数の増加とともに、国籍とその母語や文化などの多様化が進んでいる。

外国人市民、日本人市民、行政対応する市職員への意識調査では、いずれの調査でも言葉の問題、文化・習慣の違いや不安などにより、コミュニケーションにおいてギャップを感じると回答している割合が多くなっていった。

日常・社会生活を営む上では、円滑なコミュニケーションが必要であり、特に災害や病気など命に関わる場面においては、より重要である。

こういったことから、国籍別の外国人市民の人数や日本語能力を考慮しつつ、多様化している外国人市民に対して、「誰一人取り残さない」コミュニケーション支援が必要となっている。

■ 課題2：外国人の永住化に伴う「ライフステージごと」の生活に関わる支援

10年前と比べて、在留資格のうち「永住者」の人口は、元々多いブラジル国籍の人に加えて、フィリピン国籍、中国国籍の人も増えている。また、「永住者」以外の在留資格においても、ベトナム国籍で比較的多い「技術・人文知識・国際業務」、2019（平成31）年に新設された「特定活動」などでは、在留資格の更新により滞在年数を延長することも可能となっている。そうした中で、外国人市民への意識調査において、日本での永住意向が80%を超える結果となっており、今後、外国人市民の定住化・永住化の傾向は続くと考えられる。

外国人市民の定住化・永住化に伴い、外国人の子どもや高齢者等も増加しており、これまでの労働者としての生活支援という観点に限らず、日本人市民と同様に、妊娠、出産、子育て、進学、就労、介護に至るまでライフステージを意識した切れ目ない生活に関する支援という観点で、外国人市民への行政サービスの適切な情報発信が必要となっている。

■ 課題3：地域で共に暮らすための相互理解と積極的参加・交流の促進

日本人市民への意識調査では、外国人住民が増えることへの意見として「不安に思うことはない」という意見が約13.5%、「期待できることはない」という意見が25.6%となっており、「期待できることはない」という意見が12.1%上回っている。一方で、「刈谷市に住む外国人と日本人は、異なる文化や習慣を互いに認め合いながら暮らしていると思いますか？」の設問

では、2010(平成22)年度に調査時の37.0%から2022(令和4)年度に調査時の61.7%と24.7%上昇している。

今後、外国人市民の人数は増える傾向にあることから、地域における多文化共生は、より重要な課題となる。そのため、双方に理解不足があっても、お互いが知り合うことで相互理解が進み、多様性を認め合う関係ができることを期待し、必要となる人の交流やつながり、助け合いを充実するための場所や機会づくりなどの環境整備をすることが必要である。また、外国人市民の年齢構成として若年層が多く、日本人にはない価値観を持っていること等を踏まえ、地域社会において、そういった外国人住民の特徴を活かした取組を推進することが大切である。

■ **課題4**：NPO・外国人コミュニティ・刈谷市国際交流協会・企業等の参加と連携強化

本計画においては、重点協働プロジェクトを中心に、「刈谷市共存・協働のまちづくり推進条例」に掲げられた「まちづくりを担う主体【市民（日本人市民、外国人市民）、地域団体、市民活動団体（NPO）、事業者、教育機関等及び市】が参画と対話を通して、連携して各施策に取り組んできた。

外国人市民への意識調査において、86.6%が地域に暮らすコミュニティの一員として役に立ちたいと回答し、79.7%が同国の外国人コミュニティに何らかの形で関わりたいと回答している。また、日本人市民への意識調査において、57.2%が外国人の支援者として何らかの形で協力したいと回答している。

少子高齢化が急速に進展する中、共存・協働による国際化・多文化共生のまちづくりを推進するためには、こうした市民の思いと力を集約して、各団体や各機関が引き続き連携・協働を図っていくことが必要である。特に、刈谷市国際交流協会や市内企業とはこれまで以上に計画の理念や目標を共有し、それぞれの役割を効果的に担うために連携を強化していくことが重要である。

■ **課題5**：共存・協働による重点プロジェクトの深化と開発

本計画では、外国人市民への「包摂・支援」という視点での事業を実施するとともに、重点協働プロジェクトという枠組みで施策展開を行うことで、「地域住民主体の活動」、「外国人市民主体の活動」、「グローバル人材を活かした教育活動」という「交流・協働」という視点での事業を実施した。その中で「ワールドデン」は、全国的な先進事例とされるなど多くの成果を得ることができた。

前述の課題の解決のためにも、「地域住民主体」、「外国人市民主体」、「グローバル人材を活かした教育活動」は重要な視点であり、取り組みを継続し、より効果的な施策展開で深化させると同時に課題やニーズに応じた新たな視点で重点プロジェクトを開発することが必要である。